

# カマラシーラの Sarvadharmāṇiḥsvabhāvasiddhi の和訳研究 (1)

森 山 清 徹

梗 概<sup>(1)</sup>

序 論	…P312a <sup>5</sup>
I 推論式 (prayoga)	…P312b <sup>6</sup>
I. A. 1 主張命題には直接知覚との対立 (pratyakṣabādha) がないことの証明	…P312b <sup>8</sup>
I. A. 2 主張命題には自分の言ったこととの対立 (svavacanarirodha) がないことの証明	…P314a <sup>4</sup>
I. A. 3 主張命題には推理との対立 (anumānabādha) がない ことの証明	…P314b <sup>6</sup>
I. B. 証因 (hetu) が成立しない (asiddha) のではない	…P315a <sup>7</sup>
I. B. 1 諸事物が、それ自身から (自分自身を原因として) 生 起することは不合理である	…P315a <sup>8</sup>
I. B. 1. 1 事物の原因は、有ではない	…P315b <sup>1</sup>
I. B. 1. 2 事物の原因は、無でもない	…P317a <sup>5</sup>
I. B. 2 諸事物が、他から生起するという主張も不合理である	…P317a <sup>8</sup>
I. B. 2. 1 常住なものから生起することはない	…P317b <sup>1</sup>
I. B. 2. 1. 1 効果的作用の能力 (arthakriyāśakti) を原因であると 妄想している場合	…P317b <sup>1</sup>
I. B. 2. 1. 2 能力のないものを原因であると妄想している場合	…P318b <sup>8</sup>

(1) 今回、発表分の梗概を示す。他に SDNS 及び Māl の synopses は、江島恵教『中観思想の展開』(春秋社) p 227以下に示されており、益を得た。

# I

(2) 序論 諸事物 (bhāva) について顛倒した (viparyāsa) 見解をいだいている人々にとって、あらゆる雑染 (saṃkleśa) が、広大となるので、それ故に、彼らに対して、あらゆる全ての雑染を断じる顛倒のない (aviparīta) 根拠 (能証 hetu) を説くために、この書物を著わそう。

そこでまず、最高の真実として (paramārthataḥ) 諸事物の自性 (svabhāva) を論じる場合、真実として、それら (諸事物) は自性をもつものであると語る者達は、顛倒しているのものであるということを示すために、論理 (yukti) と聖教 (āgama) とによって諸事物の生起を吟味してみよう。

〔反論〕<sup>(3)</sup>「芽など (P312b) の生起は、種子などの縁を具えていると牛飼いに至るまでよく知られているのに、それを吟味することには、どんな必要があるのか。既に確定された事物の自体を思慮深い人々 (prekṣāvat) が吟味することはあり得ない。無限遡及 (anavasthā) に陥るからだ。また〔もし、そうしたこと (吟味) をすれば、彼らは〕思慮がないということになってしまうからである。」

〔答論〕それは不合理である。確実な認識手段 (pramāṇa) によって、まだ確定されていらないから、また常識 (prasiddha) さえも、誤っていることがあり得るから。

そうでなければ (常識がいつも正しければ) 自分にわかりきったこと〔だけ〕に従って行動を起こす人々のうちのだれをも〔常識〕は欺くこと (visamvādana) にならないだろう。

(2) カマラシーラによって作られた『あらゆるものが無自性であることの証明』という本が、次に置かれる。

『あらゆるものが無自性であるということの証明』、一切智者に帰命いたします。  
以上の文が最初にあるが、カマラシーラ自身のことばによるものではないと思われる。

(3) 同主旨の反論は Māl においても、P 151b<sup>1-2</sup> D 140a<sup>7</sup>

/ sa bon dañ myu gu la sogs pa bskyed par bya ba dañ / skyed par byed pa'i dños po'i ño bo ñid yin par gnag rdzi'i chuñ ma yan chad la grags pas dam bcas pa la grags pas gnod pa yañ yin no /

種子と芽などは、生ぜしめられるものと生ぜしめるものという関係を自性とするとは牛飼いの妻にいたるまで、よく知られているから〔一切法無自性という〕主張命題は、常識とも対立する (prasiddhabādhā)。

その場合、例えば、滅 (vināśa) も原因を有するものと「誤って」知られているし<sup>(4)</sup>、色・形 (rūpa) なども、外界の対象として、世間で一般に知られているけれども、吟味したならば、確実な認識 (pramāṇa) と対立すること (bādhā) があり得る。そのように、ここでも常識というものが、虚妄な (alīka) 自性をもつことがあり得るから、吟味することは妥当なのである。

そこで、論証を欠いているならば、経典だけでは、思慮深い人々を満足させないし、論証によって堅められた経典でさえも「その経典に書いてある事柄」以外のことに關しては、人を導くことができないから、従って、まず論理によって吟味しよう。

### 〔I〕 推論式 (prayoga) は〔次のように構成される〕

<sup>(5)...</sup> およそ、最高の真実として、自から生じること、他から生じること、自他の二から生じること、無因から生じること、を離れているものは<sup>(3a)</sup>全て、真実として、自性をもたないものである。例えば、虚空に咲く蓮などのように。(必然性)

自学派と他学派の人々が語るこれらのものも、以上の如き〔自、他、自他の二、無因から生じることを離れているもの〕である。(所属性)

〔それ故に、自学派と他学派の人々が語るこれらのものも、自性をもたないものである〕(結論)

内容的には (arthatas)〔この推論式は〕能遍の非認識 (vyāpakānupalabdhi)<sup>(6)</sup> によるものである。生起ということが、事物の自性に遍充するからである。この推論式では、

〔I. A. 1〕主張命題 (pratijñā) には、直接知覚との対立 (pratyakṣabādhā) があるとは考えられない。最高の真実として、自性をもたない (P313a) のもの

(4) 経量部は、滅は自然の本性であり、滅には原因がないと考える。平川彰「有利那と刹那滅」『金倉博士古稀記念印度学仏教学論集』

(5) Māl P208a<sup>6-7</sup> D1903<sup>-4</sup>

gañ dag don dam par rañ dañ / g'zan dañ / gñi ga las skye ba dañ / rgyu med pa las skye ba dañ bral ba de dag ni yañ dag par na ño bo ñid med pa yin te / dper na nam mkha'i pa dma la sogs pa lta bu'o / / rañ dan g'zan gyis yañ dag par yod par smras pa'i dños po tham cad kyañ de dañ 'dra ba kho na yin no / [1] P has /, cf. MMK. I. 1

na svato nāpi parato na dvābhyāṃ nāpyahetutaḥ / utpannā jātu vidyante bhāvāḥ kvacana ke cana //

(5a) 非存在のたとえ

である、と証明するのであるから諸事物は、自性をもつものとして、最高の真実として存在する、と知覚されると世間一般に知られているわけではない。というのは、まず外界〔の対象〕は、勝義的なもの (paramārthika) であると主張することは、全体性 (avayavin) を自性とするのか、あるいは、積集した (sañcita) 原子 (paramāṇu) としての単一な自体のものであるかである<sup>(7)</sup>が、その二つを自性とするということは、明らかに不合理である。見えている (ābhāsa) 手などの部分 (avayava) とは別に、全体性が顕われることを知覚すること (anubhava) もないし、粗大 (sthūla) であって、かつ単一な形のもの (ākāra) として顕われる諸原子も、知識の対象となることはできない<sup>(8)</sup>。それ (原子) と形 (ākāra) とは等しくないから。

- (6) 能遍の非認識は、カマラシーラが TSP でもしばしば用いる推論式である。

Māl に見られる用例を示すと、P188b<sup>1-2</sup> D172b<sup>3-4</sup> gaṇ śig raṇ gi 'bras bu thams cad cig car mñon par 'grub par mi byed pa de ni mthu thogs pa med pa daṇ / rtag pa daṇ / gcig pu'i ŋo bo ŋid ma yin te / dper na mo gśam gyi bu la sogs pa lta bu'o / / nam mkha' la sogs pa pha rol po mñon par 'dod pa rnam kyaṇ sgra la sogs pa'i 'bras bu cig car du 'grub par mi byed pas khyab par byed pa mi dmigs par bśad pa la / [1] Pom. [2]P khyad

自己のすべての結果を一度に (sakṛt) 完成しないものは、妨げられていない能力、常住性を自性とするものではない。例えば、石女の息子などのように。(必然性) 対論者の承認する虚空等も、音声などの結果を一度に完成しないものである。(所属性) [対論者の承認する虚空等は、妨げられていない能力、常住性、単一性を自性とするものではない。] (結論)

以上 (この推論式) は能遍の非認識 (vyāpakānupalabdhi) と言われる。

- (7) 外界の対象のあり方を同様な仕方で区分し考えているものに。

TS 1966

bhāsamānaḥ kimātmā 'yaṁ bāhyo'rthaḥ pratibhāsate / paramāṇusvabhāvaḥ kiṁ kiṁ vā'vayavilakṣaṇaḥ //

cf. TSP p 671 ll 22-24

tatra pratyakṣasiddho'rtho bāhyo bhavannaneko vā paramāṇuto'bhinno bhavet eko vā tairārabdho 'vayavi sthūlo'nārabdho vā — iti pakṣāḥ /

- (8) この種の外界否定論は、Viṃśatikā vijñaptimātrasiddhiḥ pp. 6<sup>25</sup>-7<sup>2</sup>

na tadekaṁ na cānekaṁ viśayaḥ paramāṇusaḥ / na ca te saṁhatā yasmāt paramāṇurna sidhyati // 11// iti / kimuktaṁ bhaviti / yattadrūpādikamāyatanam rūpādivijñaptinām pratyekaṁ viśayaḥ syāttadekaṁ vā syādyathāvayavirūpaṁ kalpyate vaiśeṣikāiḥ / anekaṁ vāparamāṇusaḥ / saṁhatā vā ta eva paramāṇavaḥ / na tāvadekaṁ viśayo bhavatyavayavebhyo' nyasyāvayavirūpasya kvacidapyagrahaṇāt / nāpyanekaṁ paramāṇūnām pratyekamagrahaṇāt / nāpi te saṁhatā viśayobhavanti / yasmātparamāṇupurekaṁ dravyaṁ na sidhyati //

cf 『大乘仏典』15世親論集唯識二十論訳注(16)

認識の対象 (jñeya) は内的なものであると論じ、無二の認識 (advayavijñāna, -jñāna) がそれが真実であると主張する人々の見解においても、それ（無二なるもの）は、知覚としとは成り立たない<sup>(9)</sup>。あらゆる場合に、所取 (grāhya) と能取 (grāhaka) として顕われる知識 [だけ] が感受されるからである。

さもなければ、あらゆるものが真実の観察となってしまう。したがって、解脱を求める人々が聖なる道を起こさんとする努力は無意味となろう。

まさにそれ故に、世尊は、

「眼、耳、鼻も確実な認識手段 (pramāṇa) ではない。舌、身、意も確実な認識手段ではない。もし、これらの認識器官が確実な認識手段であるならば、聖道はだれにとっても不要である。というのは、これらの認識器官は確実な認識手段ではないからである。本質的に無感覚なもの (jaḍa) は無記である。それ故に、涅槃の道を求める人は聖なる道にかなった行為をなせ」<sup>(10)</sup>

と説かれる。

〔経量部の反論〕「もし、あらゆる事物が、無自性 (P313b) であるなら、しからばその場合、それら（あらゆる事物）が、空間と時間などに限定され

(9) cf Māl P182a<sup>6-8</sup> D167a<sup>6-7</sup>

khyed ni yañ dag par na rnam par śes pa gñis su med pa'i rnam pa kho nar  
'dod la / sñon po la sogs pa sems kyi rnam pa sna tshogs phyi rol ñid du  
rnam par chad par snañ ba yañ byis pa byed pa po dañ las kyi tha sñad du  
bye brag tu mi śes pa rnams kyis kyañ rtog pa'i skyon dañ bral ba'i sems la  
yañ gsal rab tu yañ dag par myoñ ño / [1] D has kyi [2] D om. [3] D  
rtogs [4] P om.

汝は、勝義として、識は無二なる形象をもつものであると主張するが、青などの心の種々な形象が、外界として〔心とは〕別なものとして顕われているけれども、〔その形象が〕行為者と業という言葉上の特性 (viśeṣa) を知らない愚者たちによっても、分別の誤謬を離れた心をもった人にも、明らかに知覚される。

(10) Māl P249<sup>3-5</sup> D 224a<sup>7-b2</sup>

/ bcom ldan 'das kyis kyañ / mig dañ rna ba sna yañ tshad ma min / / lce  
dañ lus dañ sems kyañ tshad ma min / / gal te dbañ po 'di dag tshad yin  
na / / 'phags pa'i lam gyis su la ci zig bya / / 'di ltar dbañ po 'di dag tshad  
min te / / ño bo ñid kyis bem po luñ ma bstan / / de phyir mya ñan 'das  
pa'i lam 'dod gañ / / des ni 'phags pa'i lam gyis bya ba byos / / zes bsad  
do / [1] P yin [2] Pom. [3] P yin [4] D bems [5] P om.

Yuktiṣaṣṭhikā-vṛtti P. No. 5265. 6a<sup>5-7</sup>, D. No. 3864. 5a<sup>7-b2</sup> にも引用されている。

て、青や快いなどという自性をもつものとして顕われることは、どうして矛盾しないのか」<sup>(11)</sup>

〔答論〕それは矛盾しない。迷乱した (bhrānta) 認識において顕現した色形 (rūpa) のように虚妄なもの (alika) も顕現する〔間違っただけのも見える〕からである。例えば、迷乱した認識において顕現した諸の形象が、最高の真実として無自性でありながら、しかも空間と時間などに限定されて顕現するように、他のものも、それと同様であるから矛盾しないのである。

そのように（空間と時間とに限定されて）顕現する二月 (dvicandra) などのような外界の対象もそれはありはしないし、他の空間と時間に存在するものも、空間、時間的顕現と関係する必然性がないときには、あるものは、かくかくの自性として顕われることになるし、あるものは、別なものの自性として顕われるということは不合理である。過大適用の過失 (atiprasaṅga) となるからである。

そうであれば、最高の真実として<sup>(12)</sup>、あらゆるものが、あらゆる認識の対象となってしまうだろう。ある形(A)として顕現する他のもの(B)も、そこ(A)の中にはないことになってしまう。〔もしそうでなければ（BがAの中にあれば）〕多になってしまうからである。

二月などは、その知識の自性として真理 (satya) であるとするのは不合理である。単一な知識と別でない（同一の）自性であるから、知識の自性のように〔対象の方も〕多様ではない自性となるからか、あるいは、それ（対象）と知識は別ではないから、その（対象の）自性のように〔知識も〕多様なものになってしまうはずであるからである。

「対象に拡がっている (avakīrṇa) ようにあると把握されて顕われる諸の形象は、多様なもの (P314a) である<sup>(13)</sup>、という定説を立てるのであるから多く

(11) これは経量部の唯識派に対する反論として見られるものである。またこれらの理由によって、一切法無自性が、直接知覚と対立すると反論しているものは Māl P 150b<sup>4-6</sup> D 139 b<sup>4-5</sup>

/ g'zan yañ khyed kyi chos thams cad ño bo ñid med par dam bcas pa 'di ni rigs pa dañ luñ la sogs pa dañ 'gal bar 'gyur ro / / 'di ltar gzugs la sogs pa yul dañ dus kyi gnas skabs kyi bye brag gis gsal ba kho nar snañ ba'i phyir ño bo ñid dañ bcas pa ñid du ñes pas re žig dañ por mñon sum dañ 'gal ba 'jug par gsal ba ñid do / [1] P pa'i

(12) D. C don dam pa, P. N don dam であるが、don dam par と読む。

(13) 経量部の理論と考えられる。

の知識が生じる」

と考えることも、正しいことではない。諸の知識は身体がないから、対象に拡がっているようにあると把握することはないからである。

したがって、最高の真実としては、それら（諸の形象）は、知識の本体としてもあり得ない<sup>(14)</sup>。けれども、これら（諸の形象）は、空間と時間などに限定されて顕現する。したがって、あらゆる事物は、勝義的な自性を離れてはいても、顕われることとは矛盾しないから、主張命題には、直接知覚との対立はない<sup>(15)</sup>。

〔反論〕「直接知覚と対立することはないとしても〔I. A. 2〕自分の言ったことと矛盾すること（svavacanavirodha）が明らかに知られる。というのは、<sup>(16)</sup>他の人々に、決定(niyama)を生ぜしめんと欲するから、論理学者(hetuvādin)は、証因(hetu)によって決定が生じると認めているから、決定は、自性を有するものであると認められることになる。<sup>(17)</sup>さもなければ（自性を有するものであ

経量部は知識の自己認識(svasaṃvedana)を認めつつ、ある表象が時間的、空間的限定をもってあらわれることにより、それに対応する外界の対象が推理され、対象は知識に自己の形象を投げ入れる原因である、と主張する。しかし、この理論からは、単一な知識が、外界の区別に従って多様な形象(ākāra)をもつことになってしまうと、Sāntarakita によって批判されることになるのである。梶山雄一『存在と知識—仏教哲学諸派の論争—(一)経量部の根本的立場』(哲学研究 第505号)

一郷正道『中観莊嚴論註』の和訳研究 (1) (京都産業大学論集第2巻、人文科学系列第1号 S47.2)

(14) cf. MAK 23 P. No. 5285, 58a<sup>2-3</sup>

rnām pa rnamś dañ ma bral bas / rnam śes gcig tu mi 'gyur ro / de lta min na 'di gñis la / gcig ces ji skad brjod par bya // 一郷正道, 前掲書 pp. 190-191

(15) 注(11)に示した理由によって反論者は、直接知覚との対立があることを指摘するのであるが、他にも Māl P 219a<sup>8</sup>-b<sup>1</sup> D 199a<sup>7</sup>-b<sup>1</sup>  
/ sa bon dañ myu gu la sogs pa rgyu dañ 'bras bu'i dños po yañ 'jig rten na mñon sum kho nar grub pa'i phyir / dam kcas pa la mñon sum gyis gnod pa yañ yin la / 種子と芽など原因と結果の関係も世間では、知覚として成り立っているから主張命題に於て直接知覚と対立するのであって、

(16) Māl P 151b<sup>2-3</sup> D 140b<sup>1</sup>

/ gtan tshigs sbyor bar 'dod pas gzan dag nes pa bskyed par 'dod pa ñid kyis de las nes pa skye bar khas blañs pa'i phyir rañ gi tshig dañ 'gal ba yañ yin no /

cf Māl P 219b<sup>1-2</sup> D 199b<sup>1</sup>

gzan dag la gtan tshigs las bsgrub par bya ba la nes par skye bar khas blañs

pa'i phyir rañ gi tshig dañ 'gal ba yañ yin no / [1] P has /

cf Māl P 251a<sup>6-7</sup> D 226a<sup>5-6</sup>

/ gañ yañ gzan dag nes pa bskyed par dod nas gtan tshigs sbyor bar 'dod pas de las nes pa skye bar khas blañs pa'i phyir…… [1] D skyed [2] Pom. [3] P la

ると認めないなら) 証因を用いること(推論)は、無意味なこととなる。こういう承認(abhyupagama)と「汝らが推論式において、あらゆる事物は」自性をもたないものであると、主張命題を立てることは矛盾しているから、私の母は石女である、というのと同じように自分の言ったことと矛盾することは非常に明らかである」

〔答論〕<sup>(18)</sup> それも不合理である。決定を生ぜしめるために証因を用いるのであるが、それ(証因)によって決定が、最高の真実として、生じると〔中観派が〕認めることにはならない。かえって〔決定が〕生じることだけは、認めるとしても、〔勝義としてか、世俗としてかという〕生じ方の区別(riśeṣa)は、認めないのである。

勝義的な生起は、否定されるから、ここで最高の真実(P314b)として、無自性を証明しようとするのであるけれども、生起一般を否定する故ではない。

したがって、証因による決定は、最高の真実<sup>(19)</sup>としては、生じないのであるけれども、顔から映像(pratibimba)が生じるように、世俗として生じることは矛盾しないから、主張命題には、自分の言ったことと矛盾することはない。<sup>(18)</sup>

〔I. A. 3〕世俗のその決定も、勝義を理解させる証因として、確実な手段(pramāṇa)であると「我々は」認めるから「主張命題」に誤りはない。

この世間では、業とその果報の関係や依存性(縁起)などを教える經典と矛盾する(āgamavirodha) 反論も批判される。業とその果報の必然関係などは、世俗として認められるからである。<sup>(20)</sup>

(17) Māl P 219b<sup>2</sup> D 199b<sup>1-2</sup>

/ de lta ma yin na gtan tshigs sbyor ba don med pa kho nar 'gyur ro /

(18) Māl P251a<sup>7</sup>-b<sup>2</sup> D226a<sup>6</sup>-b<sup>1</sup>

...de yañ mi 'gal ba ñid de / ñes pa bskyed par bya ba'i phyir gtan tshigs sbyor ba yañ de las ñes pa don dam par skye bar khas blañs par ni mi 'gyur ro / / 'o na ci ze na / skyes pa tsam yin gyi / skye ba'i khyad par ni ma yin no / / 'dir ni don dam pa'i skye ba bkag pas dños po rnams don dam par ño bo ñid med par bsgrubs par 'dod kyi / skye ba tsam bkag pas ni ma yin no / / de'i phyir gtan tshigs las ñes pa don dam par skye ba med kyañ gzugs las gzugs brñan bñin du kun rdzob pa'i skye ba mi 'gal ba kho na yin pas dam bcas pa rañ gi tshig dañ 'gal ba ma yin no / [1] Pom. [2] P la

(19) cf. Pratītyasamutpādhāṛdaya-vyākhyāna D. No. 3837. 148b<sup>2</sup>

bñin las me loñ gi gzugs brñan 'byuñ ba dañ /

(20) cf Māl P170a<sup>2-3</sup> D156a<sup>6</sup>

'di ltar las dañ 'bras bu ni kun rdzob kho nar yod pa ñid la / [1] P brdzo



世俗の自性であるにしても〔それに対する〕批判 (paryanuyoga) は、一様ではない。それ（業とその果報）は、考察に耐えられないから、世俗であるからである。さもないければ、それは、まさしく勝義的な自性となり、世俗ではない。

まさにそれ故に、雑染、清浄などの証因 (liṅga) と勝義的な自性との必然関係は、どこにおいても、成り立たないから〔主張命題は〕推理と対立すること (anumānabādhā) もあり得ない。したがって、〔最高の真実としてという制限なしに〕一般的に雑染などを証因 (hetu) 一般として証明するならば、わかりきったことを証明すること (siddhasādhana) になる。それ〔雑染など〕は、世俗的な証因であるとすでに認められているからである。

名前 (nāman) に関しては、議論 (vivāda) の余地はない。虚妄も常識として成り立っているから、また認識手段とも対立するからである。『聖入楞伽經』に

「菩薩は、あらゆる事物は自性を (P315a) もたないものである、という主張命題を立てるべきではない<sup>(21)</sup>」

と説くことも、ただひたすら無自性だけを主張することを否定しているのであると考えられる。世俗的な自性を認めるから、〔勝義、世俗の区別なしに〕ひたすら否定することは不合理である。

さもないければ、直接知覚と対立することになるということも明らかであって、そのように無自性を成立させる認識手段 (pramāṇa) も何らあり得ない。<sup>(22...)</sup>主張命題のみによって、主張しようと思っていること (iṣṭārtha) は成立しない。〔主張命題のみで成立するならば〕あらゆるものが、あらゆる仕方で成り立つことになるからである。<sup>...22)</sup>

それ故に、勝義的な自性は否定されねばならないが、一般的に〔否定されるの〕ではない。

(21) Laṅkāvatāra sūtra ed. Nanjo p. 1677-8

śūnyā asvabhāvāḥ sarvadharmā iti mahāmate bodhisattvena mahāsattvena pratijñā  
na karaṇīyā /  
Māl P249b<sup>5</sup> D225a<sup>1</sup>  
blo gros chen po byaṅ chub sems dpa' chos thams cad ŋo bo ŋid med pa'i ŋes  
dam bca' bar mi bya'o /

(22) Māl P219b<sup>2</sup> D199b<sup>2</sup>

/ dam bcas pa tsam gyis ni 'dod pa'i don 'grub pa ma yin te / thams cad kyis  
thams cad 'grub par thal bar 'gyur ba'i phyir ro /

そういうわけで、その同じ經典に、

「マハーマティよ、菩薩は、あらゆる事物は自性をもたないものである、という主張命題を立てるべきではない。マハーマティよ、そうではなくて、菩薩は、あらゆる事物は見えること (dṛśya) と見えないこと (adrśya) <sup>(23)</sup> を特徴とするものであるから、幻や夢の如きものであると説明すべきである」

と説かれている。そこで『経』の意味は「見えることを特徴とするものである」というのは、世俗としてである。「見えないことを特徴とするものである」というのは、勝義としては (paramārthatas) <sup>(24)</sup> ということであることは明らかである。

それ故に、以上のように、まず主張命題の意味は矛盾しない。

〔I B〕<sup>(25)</sup>〔我々の推論式の〕証因が成立しない (asiddha) <sup>(26)</sup> ののではないか、ということも懸念してはならない。

というのは、まず 〔I. B. 1〕諸事物が、それ自身から生じる、というのは不合理である。存在したり、存在しなかったりする自性 <sup>(26)</sup> が、それ自身の (P315b) 原因である、ということはある得ないからである。

(23) Laṅkāvatāra sūtra ed. Nanjo p. 167<sup>7-10</sup>

śūnyā svabhāvāḥ sarvadharmā iti mahāmate bodhisattvena mahasattvena pratijñā na karaṇīyā / kiṃtu mahāmate bodhisattvena mahāsattvena māyāsvapnavatsarvabhāvopadeśaḥ karaṇīyo dṛśyādrśyalakṣaṇatvād...

訳文は skt に従った。

Māl P249b<sup>5-6</sup> D255a<sup>1-2</sup>

blo gros chen po byaṅ chub sems dpa' chos thams cad ŋo bo ŋid med pa'i ŋes dam bca' bar mi bya'o / / 'o na ci ŋe na / blo gros chen po snaṅ ba daṅ mi snaṅ ba'i mtshan ŋid kyi phir byaṅ chub sems dpa' chos thams cad sgyu ma daṅ rmi lam lta bur bstan par bya'o ŋes gsuṅs so /

(24) Māl P249b<sup>6-7</sup> D225a<sup>2</sup>

/ de la mdo'i don ni 'di snaṅ ba'i mtshan ŋid ni tha sñad du'o / / mi snaṅ ba'i mtshan ŋid ni don dam pa kho na'o ŋes bya bar mñon no /

(25) Māl P208a<sup>7</sup> D190a<sup>4</sup>

/ gtan tshigs 'di ni ma grub pa ma yin te /

(26) Māl P208a<sup>7</sup>-b<sup>1</sup> D190a<sup>4-5</sup>

'di ltar re ŋig grāṅs can ls <sup>(1...1)</sup> sogs pa gaṅ dag rgyu ŋid 'bras bu'i bdag ŋid du rnam par gnas so / / ŋes brjod <sup>(2)</sup> par byed ciṅ / dños po rnam raṅ kho na las skye bar ñe bar brjod pa de dag ni thaṅ cig rigs ma yin pa kho na ste / dños po yod pa daṅ med pa ni bdag ŋid kyi rgyu ŋid du mi 'thad pa'i phyir te / [1] D om. [2] D rjod

事物の原因が、それ自身であるならば、有であるか、あるいは無であるかであろうが、まず [I. B. 1. 1] 有ではない。それ(事物)に対して何も働きかけないから。賓陀山 (Vindhya) とヒマラヤのように。

事物の自体が成り立つまさしくその時には「事物は」事物自体と別なものであるから、事物も成り立ってしまっているから、事物自体からは原因としての作用は現われてこない。〔原因としての作用がある とすれば〕無限遡及 (anavasthā) に陥るからである。

Aがあるときに、Bがないならば、BはAの自体であるということも不合理である。過大適用の過失 (atiprasaṅga) となるからである。〔事物と事物自体とが〕別でないときにも、因果関係にあるとは不合理である。その両者にとって、原因は別であるからである。

さもないければ、それには原因がないから、これは結果である、これは原因である、というその言語習慣 (vyavahāra) は、誤りなく設けられたもの (prajñapti) ではなくて、原因・結果という名前を付されただけのものであるにすぎない。名前に関しては議論の余地はない。

もし「現在の事物にとって過去という」別な状態 (位 avasthā) が原因である、と考えるとしよう。もしそうであるならば、しからば、それ自体は原因とはならない。諸の状態と主体 (avasthātṛ) は別ではないからである。

状態が、それとは別であると認めるなら、同じように主体も別なものとなるう。それ故に、耳飾りなどは「それの」原因としての状態にある金という実体 (dravya) とも違うし、〔耳飾りは〕腕輪などという (P316a) 結果としての状態

⑥7 cf Māl P150a<sup>3</sup> D139a<sup>4</sup>

/ gaṇ dag phan tshun ma 'brel pa de dag ni go bar bya ba daṅ go bar byod pa'i dños po ma yin te / dper na ri 'bigs byed daṅ gaṅs can dag lta bu yin la / [1] P has /

互いに関係のない二つのものは、対論者 (pratipādyā) と立論者 (pratipādaka) の関係ではない。例えば、賓陀山とヒマラヤのように。

⑥8 Māl P208b<sup>3-4</sup> D190a<sup>7</sup>

gaṇ 'zig grub na gaṇ ma grub pa de ni de'i ño bo ñid du rigs pa ma yin te ha caṇ thal bar 'gyur ba'i phyir ro /

⑥9 cf TSP P157<sup>11-12</sup>

avasthānāmavasthātūrananyatvādavasthāvadavasthātūrapī nāśotpādaū syātām / P 157e 269b<sup>3</sup>

中村 元『初期のヴェーダーンタ哲学』p. 381

にあるものとも別であるならば、それ自身こそが、原因とどうしてなろうか。もし主体と等しいなら二つの状態も一つのものとなろう。それ故に、誤り (doṣa) が必ずついまわるのである。

さもないければ、主体と諸の状態は、まさしく別なものとなろう。それ(幸福)を成就した人と幸福〈状態〉とは、同一のものではないから。

また「主体と諸の状態を」別なものであると認めるならば、二つの状態こそが、原因と結果ということになるが、それ自身が「原因であるということ」にはならない。

したがって、似たものが次々に生じるから、ものにだまされた人は、その金などはまさしくこれであるといういい方をするが、それ自体が変化するのを見てからそう言うわけではない。

同じ一つのものは、別のものに变化しない。ある一つのもの〔A〕と他の一つのもの〔B〕は、相互に排除し<sup>(30)...</sup>あって存在することを特徴とする (parasparaparihāra<sup>(31)...</sup>sthiti<sup>(31)...</sup>lakṣaṇa) からである。というのは、事物にとって、それ自体〔A〕が確立 (pariccheda) されるなら、他のもの〔B〕を排除 (vyavaccheda) して確立されるし、後者〔B〕も、前者〔A〕を排除して確立される。それとは反対のものを排除しなければ、それは確立されなくなるであろう。あるもの〔x〕において、必然的關係にある (nāntariyaka) 〔A〕を確立すること (pariccheda) と〔B〕を排除すること (vyavaccheda) がある場合、それら〔AとBの〕二は、その〔x〕において、相互に否定し<sup>(31b)...</sup>あって存在することを特徴とするもの (parasparaparihāra<sup>(31b)...</sup>sthiti<sup>(31b)...</sup>lakṣaṇa) であって、相互に否定しあって存在することを特徴とするものが、一つの基体 (dharmin) において、同時に会うことは不合理である。例えば、相異<sup>(31)...</sup>なっている、形あるもの (mūrta) と形きもの (amūrta) のようなものである。

(30) Māl P168b<sup>6</sup> D155a<sup>5</sup>

de ñid dañ g'zan ñid dag ni phan tshun spañs te gnas pa'i mtshan ñid yin pas  
de ñid bdañ ñid g'zan du 'gyur ba ni 'gal ba'i phyir ro /

cf Māl P210a<sup>1</sup> D191b<sup>2</sup>

/ de ñid g'zan du 'gyur bar ruñ ba yañ ma yin te / 'gal ba'i phyir ro /

cf MMK xv. 8cd

prakṛteranyathābhāvo na hi jātūpāpadyate /

(31) Māl P210a<sup>1-4</sup> D191b<sup>2-4</sup>

/ 'di ltar dños po'i de ñid yoñs su gcod pa na g'zan ñid rnam par bcañ nas  
yoñs su gcod la / g'zan ñid kyañ de ñid rnam par bcañ nas yoñs su gcod de /

(32...)

さもなければ、あらゆるものが、まさしく単一な実体と (P316b) なってしまおうだろう。(32) したがって、同時に生じたり、滅したりすることになるであろう。(32) それ故に、同じ一つのものが、別のものに変化するというこの言い方をするのは、はなはだ多くの愚かさが、群がって生じたにすぎない。(33)

さらにまた、転変 (pariṇāma) するということであれば、以前の (pūrva) 自性 [A] を捨てて、[B になるのか] あるいは、捨てないままで [B になるのか] で

de las bzlog pa rnam par <sup>(31a)</sup> ma bcad na de yoñs su gcod par mi ruñ ba'i phyir ro / / <sup>(31b).....</sup> gañ la gañ <sup>(33...)</sup> zig yoñs su gcod pa gañ rnam par bcad pa <sup>(2)</sup> med na med pa de dag ni <sup>...31b)</sup> de la phan tshun spañs te gnas pa'i mtshan ñid yin no / / gañ dag phan tshun spañs te gnas pa'i mtshan ñid yin pa de dag kyañ chos can gcig la <sup>(33... 33)</sup> ldan par mi 'gyur te / dper na <sup>(33... 33)</sup> sems la lus can dañ lus can ma yin pa'i bye brag dag lta bu'o / [1] Pom. [2] P D have / [3] Pom.  
cf Māl P242b<sup>1-3</sup> D218b<sup>7-219a</sup><sup>2</sup>

de las bzlog pa zla med pa'i rnam pa rnam par <sup>(1)</sup> bcad nas yoñs su gcod do / <sup>(1)</sup> gañ zig yoñs su gcod pa gañ rnam par bcad pa <sup>(2)</sup> med na med pa de gñis ni phan tshun spañs te gnas pa'i mtshan ñid yin no / / gañ dag phan tshun spañs te gnas pa'i mtshan ñid yin pa de dag ni <sup>(2)</sup> rnam pa thams cad la khyab par byed pa dag yin no / <sup>(33... 33)</sup> gañ dag rnam pa thams cad la khyab par byed pa de dag ni <sup>(33... 33)</sup> phuñ po gzan sel bar byed pa dag yin te / dper na lus can dañ lus can ma yin pa la sogs pa'i bye brag dag lta bu'o / [1] Pbcas [2] D has gañ [3] P ba (31a). 注 (31) Māl P210a<sup>2</sup> D191b<sup>3</sup> により rnam par ma bcad na と読む。SDNS の Original texts PDNC は ma を欠いている。cf. Māl P194a<sup>4</sup> D177b<sup>1</sup> de rnam par ma bcad na de yoñs su gcod par mi 'thad pa'i phyir ro / (31b). 注 (31) Māl P210a<sup>2-3</sup> D191b<sup>3</sup> 及び P242b<sup>1-2</sup> D219a<sup>1</sup> / gañ zig yoñ su gcod pa gañ rnam par bcad pa <sup>(2)</sup> med na med pa de gñis ni phan tshun spañs te gnas pa'i mtshan ñid yin no /, P194a<sup>4-5</sup> D 177b<sup>1-2</sup> / gañ la gañ zig yoñ su gcod pa gañ rnam par gcad pa <sup>(2)</sup> med na med pa de dag ni de la phan tshun yoñs su spañs te gnas pa'i mtshan ñid kyis 'gal bar rnam par b'zag<sup>(1)</sup> go / [1] D g'zag により読んだ。SDNS の Original texts PDNC はいずれも gañ rnam par bcad pa <sup>(1... 1)</sup> med par gañ yoñs su gcod pa <sup>(1... 1)</sup> med pa de gñis ni phan tshun spañs te gnas pa'i mtshan ñid yin la / [1] N yoñsu であり、文意を理解することができないが、これは med na med pa (nāntariyaka) を誤解したものと思われる。cf. 注 (58a)

③ Māl P210a<sup>5</sup> D191b<sup>4-5</sup>

chos 'gal ba dañ ldan pa yañ gcig la ñid yin na ni thams cad rdzas gcig pa ñid du 'gyur te / de'i phyir cig car du bcñis pa dañ / thar ba dañ / 'chi 'pho ba dañ / skye ba la sogs par 'gyur ro /

③ cf 注 (30)

あるが、同様に、諸の属性 (dharmā) が変わるのか、あるいは基体 (dharmin) が変わるのかであろう、と吟味される。

そこで、もし〔以前の自性を〕捨ててから、という主張であるなら、そのとは、事物には部分 (avayava) がないから、以前の自性は、それ自体全体として滅してしまうのであるが、もしそうなら、肯定的随伴性 (anvaya)<sup>(34a)</sup> をもった自性というものは存在しなくなるだろう、一体どこにあらうか。

もし〔以前の自性を〕捨てないままで、という主張であるならば、そのとき〔AがBに変化するなら、もとのAなる〕状態 (avasthā)〔と後のBなる状態と〕が入り混じること (saṃkara)<sup>(35a)</sup> になるであろう。<sup>...35)</sup> したがって、老人などの状態にも少年などの状態が認められることになる。<sup>...36)</sup>

〔一つのものに老人と少年との〕二つの属性があることになるが〔それは〕不合理である。それら (二つの属性) は、それ (基本) と別々ではないから、〔その〕基体の自性と同じように、一つの自性となるのであるし、基体も、それ (属性) と別々なものではないから、属性の自性と同じように、生れたり、滅

64) Māl P209b<sup>6-7</sup> D191a<sup>7</sup>

/ 'on te bor ba'i phyogs yin na ni de'i tshe cha śas med pa'i ŋo bo yin pa'i phyir sñon gyi bdag ŋid thams cad 'zig na rjes su 'gro ba'i rañ gi ŋo bo 'ga' yañ med pa'i phyir dañ / [1] P om.

(34a) この場合は、因果関係としての anvaya である。つまり A なる自性を原因として B なる自性をもった結果が生じてくるという関係。

(35) Māl P209b<sup>4-6</sup> D191a<sup>5-6</sup>

/ g'zan yañ gal te de'i rgyur mñon par 'dod pa'i dños po sñon gyi ŋo bo ma bor ba kho nar de'i 'og tu mñon par gsal ba la sogs pa'i<sup>[1]</sup> gnas skabs su gyur na ni de'i<sup>[2]</sup> dños po g'zan kho na las<sup>[3]</sup> gnas skabs 'chol bar thal bar 'gyur te / de'i phyir rtogs par byed pa cig la bltos nas bum pa la sogs pa snañ ba dañ mi snañ bar yañ 'gyur la / [1] P pa [2] D de'i tshe [3] D gcig [4] D ltos

また、もしその原因と認められる事物が、以前の自性 (A) を捨てないで、そのすぐあとで [Bとして] 顕われる (abhivyakti) などの状態となるならば、そのとき [もとのAなる状態と後のBなる状態と] が入り混じることになるであろう。したがって、ある認識者 (pratipattr) に依存して少年など [の状態] が見えたり、見えなかったりして、...

(35a) AがAなる状態を捨てないで、Bなる状態になるというなら、AとBとが入り混った状態になるということ。

(36) Māl P209b<sup>6</sup> D191a<sup>6-7</sup>

rgan po la sogs pa'i gnas skabs na yañ byis pa la sogs pa'i gnas skabs gsal rab tu dmigs par 'gyur ro /

したりすることになってしまうからである。

さもなければ、属性と基体とが、別なものにこそなってしまうだろう。その場合、以前の属性は、まさしく原因なしに滅してしまうし、最初なかった属性が生じるから、一体何が生じるのであるか。

〔属性と基体とが〕別であるならば、属性と基体との関係 (dharmadharmibhāva) <sup>(37)</sup> としては、不合理である。過大適用の過失 (P317a) となるからである。

基体も変化しない。それ (基体) は、汝の考え方 (naya) では、いつでも、単一な自性をもつものであるからである。

同じ一つのものが、別のものに变化することは不合理である、<sup>(38)</sup> ということも先に証明し終っている。

<sup>(39)...</sup> また、もしその基体が、自性として、堅固なもの (dṛḍha) であるなら、その場合、それ (基体) は、どうして別のものに变化するであろうか。虚空などのように、単一な自性のものは、以前の自性を捨てないで、別のものに变化するというのは不合理である。

〔別のものに变化するなら〕堅固でない自性になってしまうからである。

しからば〔基体が〕堅固でない自性のものならば、その場合、動揺する (cala) 自性をもつものであるから、原因なしに滅してしまうが、それ (以前からあった同一の基体) <sup>(39)</sup> は、後にはなくなってしまっているから、別なものには変化しないのである。

<sup>(40)...</sup> したがって、この転変論者 (pariṇāma-vādin) は、賢明な人ではない。<sup>...40)</sup>

そうであれば、少しも作用をなさないから、自性があるといっても、それ自

(37) 無関係な属性と基体ということになる。

(38) cf 注 (30)

(39) Māl P210b<sup>2-4</sup> D192a<sup>2-3</sup>

/ g'zan yañ gal te dños po'i bdag ñid rañ bzin gyis brtan pa'i ño bo ñid gcig yin na ni de ji ltar g'zan ñid du 'gyur ba ñams su myoñ bar 'gyur / [1] 'o na te mi brtan pa'i ño bo ñid gcig yin na ni de'i tshe 'jig pa'i nañ can yin pa'i phyir 'di rjes su 'gro ba med par rnam par 'jig par 'gyur gyi / yañ g'zan ñid du 'gyur ba ñams su myoñ ba ni ma yin no / [1] D om.

(40) Māl P210b<sup>4-5</sup> D192a<sup>3-4</sup>

/ de lta bas na mñon par gsal ba dañ yoñs su 'gyur ba dag ruñ ba ma yin pa'i phyir de'i sgo nas rañ las skye bar kun brtags pa gañ yin pa de yañ rigs pa ma yin pa ñid do /

身を原因とする（自立的）存在者としてあるわけではない。

**【I. B. 1. 2】**「事物の原因は」無でもない。それ（無）も、あらゆる能力を欠いていることを特徴とする故、少しも作用しないからである。無を特徴とするということは、それだけのこと（作用しないということ）である。というのは、あらゆる能力を欠いているからである。

あるものが、あらゆる能力という財産 (dhana) を欠いているもの、それは、  
 どうして〔他のものに〕利益を与えること (upakāra) ができようか。利益の  
 原因は、能力であるから。

したがって、サーンキヤなどが、諸事物は、自ら生じると妄想している (parikalpita), そのことも不合理である。

(I. B. 2) 〔諸事物が〕他から〔生じる〕という主張も不合理である。

というのは、他から生じるのであれば、[I. B. 2. 1] 常住、あるいは [I. B. 2. 2] 無常、あるいは [I. B. 2. 3] 常住にして無常、あるいは [I. B. 2. 4] 常住でも無常でもない (P317b) もの、から生じることになるが、いずれかであると吟味しよう。<sup>...42)</sup>

まず、常住なものは何も存在しないから、〔I. B. 2. 1〕常住なものから生じることはない。<sup>(43)</sup>

その常住なものを〔原因として〕妄想しているとすれば、〔I. B. 2. 1. 1〕ある効果的作用の能力 (arthakriyāśakti) を原因であると妄想しているのである。例えば、他学派が、自我などを幸福などの原因であると妄想しているよう

(41) Māl P208a<sup>8</sup>-b<sup>1</sup> D190a<sup>4-5</sup>

grañs can la sogs pa gañ dag rgyu ñid 'bras bu'i bdag ñid du rnam par gñas  
 so / / ʒes brjod par byed ciñ / / dños po rñams rañ kho na las skye bar ñe  
 bar brjod pa de dag ni thañ cig rigs pa ma yin pa kho na ste / 〔1〕 D om.  
 〔2〕 D rjod 〔3〕 D rigs

cf 注(26), Māl P210b<sup>7</sup> D192a<sup>5-6</sup>

/ de ltar na re žig tha sñad du yañ rañ las skye ba mi srid do /

(42) Māl P210b<sup>7-8</sup> D192a<sup>6</sup>

/ gʒan las kyaŋ ma yin te / 'di ltar de las dños po sbye bar 'gyur na rtag pa'am<sup>[1]</sup>  
mi rtag pa'i ño bo žig las 'gyur graŋ na / [1] P has /

Mālは、ここでは他から生じる場合として、常住、あるいは無常なものから生じるケースだけを挙げている。

(43) Māl P210b<sup>8</sup> D192a<sup>6</sup>

re žig rtag pa las ni *tha snad du* yañ de rigs pa ma yin te /



なものか、あるいは、[I. B. 2. 1. 2] 無能力なもの、例えば、ヴァイバーシカ（毘婆沙師）たちが、虚空などの三つの能力のないもの〔無為法〕を実体として妄想しているようなものである。

その場合、[I. B. 2. 1. 1] 効果的作用の能力が、常住なものであるという<sup>(44...)</sup>のは不合理である。常住なものが世俗としてでも、継続的および同時に（kramayaugapadyam）効果的作用をなすというのは、不合理であるから。

〔一方〕原因の能力が、妨げられることのないものであるなら、あるときに、結果を生じないということは成り立たないし、〔他方〕結果が、完全な（avikala）原因をもったものであるならば、決して生じないことはない。継続的に、効果的作用（arthakriyā）をなし、他のものによって、利益を与えられること<sup>(44a)</sup>がないものは、依存することが何もないのであって、いかにしても、補助因（sahakārikāraṇa）に依存して、あるときに、結果を生じることにはならない、ということが正しいこととなる。

また、作用（vyāpāra）しているときに、そのあらゆる補助因の近くにあるその同じ自性が、補助因と離れているときにも、つき従っていると言うなら、<sup>(45...)</sup>そのときには、それ（補助因）と結びついた自性が、つき従うのだから、腕づくで、首を鎖で、<sup>(46...)</sup>しっかりとつながれているように、〔作用〕したい時と同じように、常に、諸の補助因の近くにある自性（P318a）となるであろう。それ故に、〔自性は〕補助因を離れていない性質のものとなる。<sup>(47...)</sup>

<sup>(47...)</sup>結果も〔補助因に〕依存するというのは不合理である。（宗）

(44) (45) (46) (47) Māl P210b<sup>8</sup>-211a<sup>4</sup> D192a<sup>6</sup>-b<sup>2</sup>

<sup>(44...)</sup>  
re ʒig rtag pa las ni tha sñad du yañ de rigs pa ma yin te / de ni rim dañ rim  
ma yin pa dag gis don byed par mi 'thad pa'i phyir ro / / rgyu nus pa thogs  
pa med par yod pa yañ 'bras bu res 'ga' mi skye bar mi 'gyur la / 'bras bu  
rgyu ma tshañ ba med pa yañ res 'ga' mi 'byuñ bar mi 'gyur na gañ gi phyir  
rim gyis de'i don bya ba byed par 'gyur te / g'zan dag gis khyad par du byar  
med pa ni de la bltos par mi 'thad pa'i phyir ro / / lhan cig byed pa'i rgyu  
dañ 'brel ba'i rañ b'zin rjes su 'brañ na ni de dañ 'bra ba lhan cig byed pa  
nams kyañ rtag tu rjes su 'bran bar thal ba yin no / / ci ste rjes su mi 'brañ  
na ni de'i rtag pa ñid ñams par 'gyur ro / / de'i phyir 'di yañ lhan cig byed  
pa'i rkyen la bstos pa ma yin no / / rgyu rtag pa la rag las te skye ba'i  
'bras bu yañ rkyen g'zan bltos pa ma yin te / de ni med pa'i phyir ro / [1]  
P sbye [2] D ltos [3] D las ltos

(44a) gañ gis na の意味は十分に明らかでない。

〔結果が〕無なる故に。(因, 所属性)<sup>...47)</sup>

〔無なるものは, 補助因に依存しない〕

例えば, 兎の角のように。(喩)<sup>(48)</sup>

<sup>(49)</sup>... それ(補助因)と結びついた自性が考えられるから, 知恵による考察によって, 〔結果が〕存在しないときにも, 知恵によって〔結果を〕確立するのだけでも, そうだとしても, それ〔結果〕が完成 (abhinirvṛtti) されるときに, それ〔補助因〕が, 能力が妨げられていない原因に対して, 利益を与えると見なくてはならないが, それ以外のもの(能力が妨げられている原因)に対してではない。

したがって, 結果が, 常住なものであると考えられ, 常に利益を与える事物の近くにあるならば, 妨げられていないそれ(事物)自体の〔もっている〕能力を捨てて, 〔その結果が〕他のもの(原因である事物以外のもの)に依存することがどうして必要であろうか。それ(原因である事物)が, これ(結果)に対して妨げをなしたり, 他のもの(原因である事物以外のもの)が, これ(結果)に対して利益を与えたりすることは, 何らないのである。

さらにまた, 結果が, 諸の補助因に依存するとしても, しかも, 自在天 (īśvara) など, 原因であるものの能力が妨げられていないならば, どうして〔他のものに〕依存することが必要であろうか。それ(結果)が生じようとはしなくても, どうして強引に生ぜしめないのか(必ず, 生ぜしめるはずである)。そうであるなら, それ(自在天)が, 自己の能力を示すことになるのであるが, 別な仕方ではない。<sup>...50)</sup>

(48) これを Dharmakīrti の推論式の形式で表わすと,

無なるものは補助因に依存しない。例えば, 兎の角のように。〔必然性〕

結果は無なるもの(存在しないもの)である。〔所属性〕

結果は補助因に依存しない。〔結論〕

(49) Māl P211a<sup>4-6</sup> D192b<sup>2-4</sup>

/ med bzin du yañ de dañ 'brel ba'i bdag ñid kyi dños po 'thob pa'i phyir blos  
kun brtags pa'i bltos <sup>(1)</sup>par rnam par 'jog mod kyi / 'on kyañ de mñon par 'grub  
par bya ba la rgyu nus pa thogs pa med pa gañ yin pa de ñid la <sup>(2)</sup>des phan  
'dogs pa ñid <sup>(3)</sup>kyis bltos par bya'i / gzan la ni ma yin no / de'i phyir rtag  
par 'dod pa'i dños po rtag tu phan 'dogs pa ñid du ñe bar <sup>(4)</sup>mthu thogs pa med  
pa ñid bor te / de las gzan la ci ste bltos / [1] D ltos [2] D ltos [3] D has  
pa [4] D ltos

(50) Māl P211a<sup>6-8</sup> D192b<sup>4-5</sup>

したがって、存在していない結果が〔補助因に〕依存することは不合理である。<sup>(31...)</sup>

現に存在している〔結果が、補助因に依存すること〕も、不合理である。それ（現に存在している結果）は、あらゆる自性を得ているから、一切のものに何かを期待することがないからである。<sup>(32...)</sup>

〔反論〕「その二つ（原因と結果）が別でない（一つの）ものになってしまうから、結果は原因のあらゆる属性にしたがうわけではない。したがって（P318b）必ず、その二つ（原因と結果）は、なんらかの形で、別々なものでなければなら<sup>(33...)</sup>ないだろう。だから、<sup>(34...)</sup>継時性をもたない原因<sup>(35...)</sup>から<sup>(36...)</sup>も、<sup>(37...)</sup>継時性をもった結果<sup>(38...)</sup>が〔生じてくることは〕少しも矛盾しないのである」

〔答論〕それは不合理である。我々も、結果は原因のあらゆる属性にしたがうものであるとは主張しない。かえって、まずは、必ず結果と原因との間に存

'bras bu lhan cig byed pa'i rkyen rnams la bltos su chug na yañ / 'on kyañ <sup>(1)</sup>de'i <sup>(2)</sup>rgyu dbañ phyug la sogs pa gañ yin pa de mthu thogs pa med pa yin na go ci ste btañ sñoms su 'dug ste / <sup>(3)</sup>gañ gis na de skye bar mi 'dod bžin du yañ nan ghyis drañs te skye bar mi byed / <sup>(4)</sup>de lta na des bdag ñid kyi mthu ñe bar bstan par 'gyur gyi / gžan du ni ma yin no / [1] D ltos [2] D ji [3] D om. [4] P om.

(51) Māl P211b<sup>6</sup> D193a<sup>2-3</sup> / 'bras bu yod pa ni bltos par rigs pa yañ ma yin te / de ni bdag ñid thams cad kyi grub zin pas thams cad la re ba med pa'i phyir ro / [1] D ltos

(52) (53) (54) Māl P211a<sup>8</sup>-b<sup>2</sup> D192b<sup>5-6</sup>  
/ gal te 'di sñam du <sup>(53...)</sup>'bras bu rgyu'i chos thams cad kyi rjes su byed pa ñid ni <sup>(54...)</sup>ma yin te / <sup>(55...)</sup>de gñis tha dad pa ma yin par thal bar 'gyur ba'i phyir ro / / <sup>(56...)</sup>de'i phyir gdon mi za bar de gñis rnam pa 'ga' žig tha dad par 'gyur dgos so / / <sup>(57...)</sup>des na <sup>(58...)</sup>rgyu rim <sup>(59...)</sup>can ma yin pa las kyañ 'bras bu rim dañ ldan pa mi 'gal ba kho na'o sñam du sems na / [1] Pna [2] D ñid

(54a) Māl 注(54) により rgyu を加えて読む。

(55) Māl P211b<sup>2-7</sup> D192b<sup>6</sup>-193a<sup>1</sup>  
<sup>(1...1)</sup>de ni rigs pa ma yin te / bras bu rgyu'i chos thams cad kyi rjes su <sup>(2)</sup>byed par ni mi smra'o / / 'on kyañ re žig gdon mi za bar 'bras bu rgyu la yod pa'i rjes su 'gro ba dañ / ldog pa'i rjes su <sup>(3)</sup>byed par ni 'gyur dgos te / rgyu dañ 'bras bu'i dños po'i rgyu ni <sup>(4)</sup>'di tsam du zad pa'i phyir ro / / 'bras bu 'ga' yañ <sup>(5)</sup>dños po rtag pa la yod pa'i ldog pa'i rjes su byed pa ni med de / rtag pa la ldog pa med pa'i phyir ro / [1] P de'i [2] P byad [3] P dñas [4] P gañ

在する肯定的随伴性 (anvaya) と否定的随伴性 (vyatireka) に従う必要がある  
〔と主張するのである〕〔というのは〕因果関係の根拠は、それだけに尽きるからである。

どんな結果も、常住と認められる原因との間に存在する否定的随伴性<sup>(55 a) ... (55 b)</sup>に従う  
ことはないのである。常住なものには、否定的随伴性はないからである。

さもなければ (否定的随伴性があれば)〔原因は〕無常なものだけとなり、常住なものではなくなる。

肯定的随伴性<sup>(56 a)</sup>に従うというのでもない。それ (諸原因) が、完全に近在していても、場合によっては、結果が生じないこともあるから。

あるもの (結果) と他のもの (原因) との間に存在する肯定的随伴性〔と否定的随伴性〕に従わないものは、それ (原因) の結果とはならない。過大適用の過失となるからである。

そうであれば、まず常住なものが、継時的に効果的作用をなすことはできない。

同時に (sakṛt) 効果的作用をなすのでもない。〔以前の自性に従ってある結果を生じた常住なるものが〕後に作用をする同じような自性に従うならば、結果の生起と離れることはあり得ないからである。〔それは〕以前の自性の場合と同じである。〔従って、それは二度結果を生じることになってしまう。〕<sup>(57 a) ... (57 b)</sup>

〔後に作用する自性に〕従わないならば、それ (原因) の常住な性質は崩れてしまう。

(55a) 常住な原因に「原因がなければ、結果もない」という否定的随伴性 (vyatireka) はあり得ないからである。

(56) (56a) (56b) 注(55) のMālの文の続きである。P211b<sup>4-6</sup> D193a<sup>1-2</sup>

de lta ma yin na <sup>(56 a)</sup> ni mi rtag pa kho nar 'gyur gyi / rtag pa ni ma yin no / /  
rjes su 'gro ba'i rjes su byed pa yañ ma yin te / de ma tshañ ba med par ñe  
yañ res 'ga' 'bras bu mi skye ba'i phyir ro / / gañ žig gañ la yod pa'i rjes  
su byed pa 'gro ba dañ ldog pa dag gis rjes su mi byed pa de ni de'i 'bras bur  
rigs pa ma yin te / ha cañ thal bar 'gyur ba'i phyir ro /

(56a) もと SDNS は rjes su 'gro ba'i byed pa であったが Māl により byed pa を省いて読む。

(56b) Māl によって、ldog pa を補って読む。

(57) (57a) Māl P211b<sup>6</sup>-212a<sup>1</sup> D193a<sup>3-4</sup>

<sup>(57...)</sup> / de ltar re žig rtag pa la rim gyis don byed pa'i mthu rigs pa ma yin no / /  
cig car yañ ma yin te / de'i don bye pa'i rañ bžin de lta bu žig yañ rjes su

<sup>(58...</sup> 繼時的, 同時的であることとは別な効果的作用を行うもう一つ別な形というものはない。

その二つ(繼時性, 同時性)は, 互いに必然的關係にある<sup>(58 a ...)</sup> (nāntariyaka) 確立すること (pariccheda) と排除すること (vyavaccheda)<sup>(...58 a)</sup> であるので, [その二つは]<sup>(...58)</sup> 相互に否定しあって存在することを特徴とするものであるからである。

[I. B. 2. 1. 2] あらゆる能力を (P319a) 欠いているものが事物である, というのも不合理である。

過大適用の過失となるからである。

'brañs na 'bras bu'i skyed ba dañ 'bral bar mi ruñ ba'i phyir ro / / ci ste mi  
'brañ na ni de'i rtag pa ñid ñams pa yin no / / 'on te yañ 'di'i nus pa'i rañ  
bzin dus phyis kyañ rjes su 'brañ mod kyi / 'on kyañ re zig des 'bras bu thams  
cad sñar skyed zin pa gañ yin pa de ni yañ bskyed par nus pa ma yin pa kho  
na ste / de ni skyes zin pa'i phyir ro / [1] D ji [2] D bskyed  
cf 注(6)

cf Māl pūrvapakṣa P147b<sup>1</sup> D137a<sup>1-2</sup>

rtag pa ni rim dañ cig car dag gis don byed par 'gal ba phyir ro /  
常住なものが, 繼時のおよび同時に効果的作用をなすものであるというのは矛盾しているからである。

(57a) かえて, まずそれ(常住な原因)があらゆる結果を以前に生じてしまっているも「結果を」生じることはいできない。それ(結果)が生じてしまっているからである。

cf Māl pūrvapakṣa P147a<sup>7</sup> D136b<sup>7</sup>

/ skes zin pa rñams kyañ yañ bdag ñid bskyed pa don med de / grub zin  
pa'i phyir ro /  
生じてしまったものが, 再び自分を生じることとは無意味である。成立してしまっているからである。

(57b) cf Māl P212a<sup>4-5</sup> D193a<sup>4-5</sup>

/ 'dis dus phyis kyañ sñon bzin du skyed par byed pa ñid du yañ 'gyur ro /  
/ de lta ma yin na chos 'gal ba dañ ldan pa'i phyir 'di'i gcig pa ñid ñams par  
'gyur ro / / de lta bas na de cig car don byed pa yañ ma yin no /  
それ(常住な原因)が, 後にも「結果を」以前と同様生ぜしめることになる。さもない  
ければ(後に生ぜしめないなら)「常住な原因は」対立した属性を具えているから,  
これ(常住な原因)の単一性は崩れてしまう。それ故に, それ(常住な原因)が同時に  
効果的作用をなすのでもない。

(58) Māl P212a<sup>5-7</sup> D193b<sup>1-2</sup> (58a) Māl P212a<sup>6</sup> D193b<sup>1</sup>

/ rim dañ cig car dag las ma gtogs pa gañ gis na don bya ba byed par 'gyur  
ba'i rñam pa gzan yañ yod pa ma yin te / / de dag ni phan tshun yoñs su  
gcod pa rñam par bcad pa med na med pa ñid kyi phan tshun spañs te gnas

もしもそうであるならば（あらゆる能力のないものが、事物であるなら）石女の息子なども事物であることになってしまう。それ故に、事物が存在しないという判断を立てる根拠は、決して成り立たないから、いかなるものも非存在であるとは証明されないのである。

それ（非存在）が、成り立たないならば、事物も成り立たないのである。<sup>(59)</sup>

それ（事物）には、異類（非存在）を排除することが成り立っていないからである。

異類と対立しない自性をもつものは、全く、それ自体を決定することはどうしてもできない。

したがって、効果的作用の能力を離れているものこそは、兎の角などを自性とするもの〔非存在〕の特徴であって、それと反対のもの（効果的作用の能力をもつもの）が、事物の特徴であるということは正しいのである。<sup>(60)</sup>

それ故に、兎の角などと区別のない、折滅（*pratisamkhyānirodha*）などを思慮深い人々（*prekṣāvat*）が、事物であると判断することは不合理である。それ（折滅）には原因がないからである。

というのは、もし、折滅などのもの〔三無為〕が、ある人の知識の対象になるならば、そのとき、その人に、必ず、その（知識の）原因としての事物があ

pa'i mtshan űid dag gañ yañ ruñ ba žig dgag pa gžan sgrub<sup>[3]</sup> pa med na med  
pa yin pa'i phyir ro / / de ltar na re žig gžan rtag pa las skye bar rigs pa ma  
yin no / [1] P om. [2] P has / [3] P bsgrub

(58a) 先の Māl P212a<sup>6</sup> D193b<sup>1</sup> により読んだ。

SDNS の Original texts PDNC は、いずれも、rnam par bcad pa med na yōñs<sup>[1] [2...]</sup>  
su gcod pa med pa [1] P D have / [2] N yōñsu であり、文意を理解し得ない。  
これは注(31b)の場合と同様 med na med pa (nāntariyaka) を誤解したものと思わ  
れる。

(59) cf MMK XV5ab

bhāvasya cedaprasiddhirabhāvo naiva sidhyati /

(60) PV. Pratyakṣa 50cd

tad ayogyatayā'rūpaṃ tad dhy avastuṣu lakṣaṇam // 戸崎宏正『仏教認識論の研  
究 上巻』p 119

(61) ibid. 3ab

arthakriyāsamartham yat tad atra paramārthasat / 戸崎, 前掲書 p. 61

cf. TS 1737ab

arthakriyāsamarthatvaṃ vastutvamabhidhīyate /

cf. SDNS P320b<sup>8</sup> D279b<sup>2</sup>

dnos po'i mtshan űid ni don byed nus pa'i phyir ro /

ると認められなければならない。〔知識の〕原因でないものには、対象としての性質もないからである。

特定の原因が、自己の形象を投入することによって、認識に利益を与える場合、対象であるといわれる。<sup>(62)</sup>

さもなければ（認識に利益を与えないならば）その常住なるもの（摂滅など）の常住性が、崩れてしまうであろう。いかなる場合にも、継時的及び同時的に、原因であることは不合理であるからである。

もし〔認識に〕利益を与えなくとも、認識（P319b）の対象であると〔汝が〕考えるならば、その（摂滅などの）<sup>(63)</sup>自性は、あらゆる仕方で、引き続くから、その認識も、その（摂滅などの）自性と同じように、常に引き続くために常住なものとなってしまうだろう。<sup>(64)</sup>〔もし〕引き続かないならば、その常住な性質が崩れてしまうという誤ちは避け難い。

あるいはもし、一切智者の御心でさえも、何らかの対象としての事物には近づかない（わからない）ことがある、と考えるならば、その場合、諸の賢者が、それ〔一切智者でさえわからないもの〕を事物であると判断することは不合理である。その（賢者の）認識には、判断の原因がないからである。

それ（摂滅など）が、全く存在しない兎の角などどのような仕方で違ったものであると、証明されるのか、その区別を述べる必要がある。非存在と区別されない自性をもつものは、事物として理解することはできない。

その（非存在と区別されないという）特殊性を自性であると、とらえることがある、と言うことも不合理である。非存在においてすらも、あらゆる能力を離れていることを特徴とする自性を把握することがあるからである。

石女の息子などと区別のないようなものに対しても、事物という名前を設けるなら、名前に関しては議論の余地はない。

けれども、思慮深く、効果的作用（arthakriyā）を求め、事物の自性を考察

(62) MAV P56b<sup>7</sup>

yul rañ gi rnam pa 'jog nus pa ni rgyu ñid de rig par bya ba ñid yin pa dañ /  
cf. PV pratyakṣa 247

bhinnakālaṃ kathaṃ grāhyam iti ced grāhyatām viduḥ / hetutvam eva yuktijñā  
jñānākārārpaṇakṣamam //

これが、経量部説であることについては、戸崎、前掲書 p. 41

(63) テキストには rnam par śes pa'i が入っているが、省いて読む。

(64) cf. 注(57)

する人は、それらのもの（沢滅など）は全く認識されない自性のもの、すなわち、あらゆる能力を欠いているために石女の息子などと区別のないようなものであって、それには判断の原因がないから、事物と確定することは正しくない、と言う。

〔次のように〕言われる。(P320a)

効果的作用の能力 (arthakriyāśakti) がないものを求め、考察して何の役に立とうか。

宦官 (napuṃsaka) は、見好いか、醜いか、と愛人たちが考えて、何になるうか。

こういうわけで、いかなる事物も、常住なものとしては存在しないから、常住なものからの生起は不合理である。(続く)

### Abbreviations

all : consensus of PDNC

C : The Co ne edition, USA, IASWR

D : The sDe dge edition, preserved at the Faculty of Letters, University of Tokyo, edited by Hayashima, Takasaki Yamaguchi and Ejima

LAS : Laṅkāvatāra-Sūtra, ed. by Bunyiu Nanjio

MAK : Madhyamakālaṃkārikā of Śāntarakṣita

MAV : Madhyamakālaṃkāravṛtti of Śāntarakṣita

Māl : Madhyamakālokanāma of Kamalasīla (P. No. 5287. Vol. 101. sa 143b<sup>2</sup>-275a<sup>4</sup> D. No. 3887. sa 133b<sup>4</sup>-244a<sup>7</sup>)

MMK : Mūlamadhyamakakārikā of Nāgārjuna

N : The sNar than edition, preserved at the Kyoto University, Toyobunko

om. : The edition omits the letter or the word.

P : The Peking edition 『影印北京版西藏大蔵経』 edited by Daisetz Suzuki

PV : Pramāṇavārttika of Dharmakīrti

SDNS : Sarvadharmāṇiṣvabhāvasiddhi of Kamalasīla (P. No. 5289. Vol. 101. sa312a<sup>4</sup>-338a<sup>5</sup> D. No. 3889. sa273a<sup>4</sup>-291a<sup>7</sup> N. No. 3280. sa301a<sup>6</sup>-323a<sup>4</sup> C. Tanjur Vol. 28(sa)ff269a<sup>5</sup>-288a<sup>7</sup>)

TS, TSP : Tattvasaṅgraha of Ācārya Shāntarakṣita with the Commentary 'Pañjikā' of Shri Kamalashīla, ed. by S. D. Shastri, Bauddha Bharati Series-1, Varanasi, 1968



II

- P312a<sup>5</sup> The text of Kamalasīla's Sarvadharmanīḥsvahāvasiddhi  
 D273a<sup>4</sup> / dños po rnams la phyin ci log gi blo can rnams kyī kun  
 N301a<sup>6</sup> nas ñon moñs pa ma lus par rgyas par <sup>(3... ..3)</sup>'gyur bas de'i phyir de  
 C269a<sup>5</sup> dag la kun nas ñon moñs pa ma lus pa mtha' dag gcod pa'i  
 \*\*N301b rgyu phyin ci ma\*\* log pa bstan pa'i phyir 'di<sup>(5)</sup> brtsam mo /  
 / de la re bzig gañ dag don dam par dños po rnams kyī rañ  
 bžim brjod pa na / yañ dag par de dag rañ bžin dañ bcas  
 par rjod<sup>(6)</sup> par byed de / de dag gis<sup>(7)</sup> phyin ci log yin pa kho  
 nar bstan pa'i phyir / rigs pa dañ luñ dag gis dños po rnams  
 kyī skye ba dpyad par bya'o /  
 P312b / gal te 'di sñam du myu gu la sogs (b) pa'i skye ba sa bon  
 °C 269b la sogs pa'i rkyen ° can gnag rdzi yan chad la grags pa kho na  
 yin na<sup>(8)</sup> de la dpyad par bya ci dgos / dños po'i bdag ñid  
 gtan la phab pa la ni rtog pa dañ ldan pa rnams dpyad par ruñ  
 \*D273b ba ma yin te /\* thug pa med par thal bar 'gyur ba'i phyir dañ /  
 rtog pa dañ mi ldan pa ñid du thal bar 'gyur ba'i phyir ro  
 sñam du sems na / de ni rigs pa ma yin te / tshad mas  
 gtan la ma phab pa'i phyir dañ / grags pa yañ log par srid  
 pa'i phyir ro / / de lta ma yin na rañ la grags pa'i ñor byas  
 te 'jug pa rnams su yañ gañ la yañ slu bar mi 'gyur ro /  
 / de la dper na 'jig pa yañ rgyu dañ ldan pa ñid du grags  
 la / gzugs la sogs pa yañ phyi rol gyi don ñid du grags su  
 zim kyañ / dpyad pa byas na tshad mas gnod pa srid pa de

(1) P N have / chos kun rañ bžim med par grub pa ka ma la sī las  
 mdzad pa bžugs so /  
 (2) PDNC have chos thams cad rañ bžin med par grub pa / thams cad  
 mkhyen pa la phyag 'tshal lo /  
 (3) C gyur pas (4) PN om. C lus pa (5) PN om. (6) CN brjod  
 (7) All gi, read gis (8) DChave / (9) P ltan (10) N phyiro  
 (11) N rnamsu (12) N 'gyuro (13) N gragsu (13a) P om.

b'zin du 'di la yañ grags pa brdzun pa'i ño bo yañ srid pas  
dpyad par bya bar ruñ ba ñid do /

/ de la luñ rigs pa dañ bral ba ni rtog pa dañ ldan pa  
rnams rañs par mi 'gyur la / rigs pas brtan por byas pa'i luñ  
yañ don g'zan du drañ bar mi nus pas de'i phyir re 'zig rigs  
pas dpyad par bya'o /

(I) / sbyor ba ni

gañ dañ gañ dag yañ dag par rañ dañ g'zan dan<sup>(1)</sup> gñi ga las  
skye ba dañ / rgyu med pa las skye ba dañ bral ba de  
dag ni yañ dag par na rañ b'zin med pa yin te / <sup>(2)</sup>dper  
na nam mkha'i padma<sup>(3)</sup> la sogs pa b'zin no / / rañ dañ

\*\*N302a

g'zan gyi skye bos smras pa \*\*'di dag kyañ de dañ 'dra bas  
don gyis na khyab par byed pa mi dmigs pa yin te / <sup>(4... ..4)</sup>skye bas  
dños po rañ b'zin la khyab par byed pa'i phyir ro /

P313a

(I. A. 1) / 'di la dam bcas pa la mñon sum gyis gnod pa  
yañ mi bsam ste / don dam par rañ b'zin med pa (a) ñid du  
sgrub par byed pa'i phyir ro / <sup>(5... ..5)</sup>/ / dños po rnams rañ b'zin dañ  
bcas pa ñid du don dam par yod par mñon sum du graga pa ni  
ma<sup>(6)</sup> yin te / 'di ltar re 'zig phyi rol gyi don<sup>(7)</sup> don dam pa  
pa yin par 'dod pa yan lag can gyi ño bo'm / rdul phra rab  
bsags pa'i bdag ñid gcig yin grañ na<sup>(8)</sup> / <sup>(9)</sup>de gñi ga'i ño bo  
yañ mñon sum du rigs pa<sup>(10)</sup> ma yin te / lag pa la sogs pa yan  
lag snañ ba ma gtogs °pa yan lag can snañ ba ñams su myoñ  
ba yañ med la / rdul phra rab rnams kyañ rags pa dañ rnam  
pa gcig tu snañ ba can gyi 'ses pa'i yul du<sup>(11)</sup> ruñ ba ma yin  
te / de dañ rnam pa mi 'dra ba'i phyir ro / <sup>(12... ..12)</sup>

°C270a

\*D274a

/\* 'ses bya nañ gi yin par smra ba gañ dag gñis med pa'i  
rnam par 'ses pa ñid de kho na yin no 'zes zer ba de dag gi  
<sup>(13... ..13)</sup>

(1) P N / (2) N om. (3) N pa dma (4) N phyiro

(5) N phyiro (6) PN om. (7) All om. dan (8) DC ni

(9) N om. (10) D ma (11) P tu (12) N phyiro (13) N yino

lta ba la yañ de mñon sum du ma grub ste / <sup>(1... ..1)</sup> dus thams cad  
du gzuñ ba dañ 'dzin par snañ ba'i šes pa ñams su myoñ ba'i  
<sup>(2... ..2)</sup> phyir ro /

/ de lta ma yin na thams cad de kho na mthoñ ba kho nar  
'gyur te / des na thar pa don du gñer ba rnams kyis 'phags  
pa'i lam bskyed pa'i 'bad pa don med par <sup>(3... ..3)</sup> 'gyur ro / <sup>(4)</sup> de  
ñid kyi phyir bcom ldan 'das kyis /

/ <sup>(5)</sup> mig dañ rna ba sna yañ tshad ma min /

/ lce dañ lus dañ sems kyañ tshad ma min /

/ gal te dbañ po 'di dag tshad yin na /

/ 'phags pa'i lam gyis su la ci žig bya/<sup>(6)</sup>

/ 'di ltar dbañ po 'di dag tshad min te /<sup>(7)</sup>

/ ño bo ñid kyis<sup>(8)</sup> bem<sup>(9)</sup> po luñ ma bstan<sup>(10)</sup> /

/ <sup>(11)</sup> di phyir mya ñan 'das pa'i lam 'dod gañ /

\*\*N302b / <sup>(12)</sup> des ni 'phags\*\* pa'i lam gyi bya ba byos /<sup>(13)</sup>

/<sup>(14)</sup> žes gsuñs so /

P313b

/ gal te dños po thams cad rañ bžin med pa (b) ñid yin  
na / 'o na ni de'i tshe de dag yul dañ dus la sogs pa ñes par  
sñon po dañ / phya le ba la sogs pa'i ño bor snañ ba ji ltar  
mi 'gal že na /<sup>(15)</sup>

ma yin te / 'khrul pa'i rnam par šes pa la snañ ba'i gzugs  
bžin du brdzun pa yañ snañ ba'i <sup>(16... ..16)</sup> phyir ro / / ji ltar 'khrul  
pa'i<sup>(17)</sup> rnam par šes pa la snañ ba'i rnam pa rnams don dam  
par rañ bžin med pa yin yañ / yul dañ dus la sogs pa ñes  
par snañ ba ltar gžan dag kyañ de dañ 'dra bas mi 'gal ba  
ñid do/

/ gañ de ltar snañ bar 'gyur ba zla ba gñis la sogs pa phyi  
rol gyi don de lta bu de yañ med la / yul dañ dus gžan na

(1) N ñamsu (2) N phyiro (3) N 'gyuro (4) N has /

(5) PDN om. (6) N obscure (7) N obscure (8) C kyi

(9) DC bems (10) P om. (11) P om. (12) P. om. (13) Pom.

(14) PN om. (15) PN om. (16) N phyiro (17) PC ba'i

yod pa'i don yañ yul dañ dus la sogs pa snañ ba dañ 'brel  
 pa'i ño bo ñid med na / gañ gis na 'di de'i ño bor snañ ño  
 zes bya bar 'gyur / gžan ni gžan gyi ño bor snañ ba rigs pa  
 ma yin te / ha cañ thal bar 'gyur ba'i phyir ro /

°C270b / ° de lta na don dam par<sup>(3)</sup> thams cad kyañ rnam par śes  
 pa thams cad kyi yul du 'gyur ro / / gañ gis na snañ bar  
 'gyur ba'i ño bo gžan yañ de la med de / du mar thal bar  
 'gyur ba'i phyir ro /

\*D274b / zla ba gñis la sogs pa de śes pa'i ño bor bden pa ñid du\*  
 rigs pa ma yin te / śes pa gcig dañ tha mi dad pa'i ño bo  
 ñid yin pas<sup>(6)</sup> śes pa'i rañ gi ño bo bžin sna tshogs ma yin  
 ño bo ñid du thal bar 'gyur ba'i phyir ram / de dañ śes pa  
 tha mi dad pa'i phyir de'i rañ gi ño bo bžin sna tshogs ñid  
 du thal bar 'gyur ba'i phyir ro /

P314a / yul la bkram pa ltar 'dug par yoñs su 'dzin par snañ ba'i  
 rnam pa rnams<sup>(9)</sup> sna tshogs ñid (a) yin par gžuñ gzugs pa'i  
 phyir śes pa du ma skye bar rtogs pa yañ legs pa ma yin te  
 / śes pa rnams ni lus med pa ñid kyi phyir yul la bkram pa  
 ltar 'dug par yañs su 'dzin pa med pa'i phyir ro /

\*\*N303a / \*\* de lta bas na don dam par na de dag śes pa'i ño bo ñid  
 du yañ mi srid do / / 'on kyañ 'di dag yul dañ dus la sogs  
 pa ñes par yañ snañ ste<sup>(11)</sup> /

de lta bas na dños po thams cad don dam pa'i rañ bžin dañ  
 bral ba yin yañ snañ ba mi 'gal ba ñid pas dam bcas pa la  
 mñon sum gyi gnod pa med do /

/ gal te 'di sñam du mñon sum gyis gnod pa med du zin  
 kyañ rañ [I. A. 2] gi tshig dañ 'gal ba ñid ni gsal bar<sup>(13)</sup> rab  
 tu dmigs pa kho na ste / 'di ltar gžan dag la ñes pa bskyed<sup>(14)</sup>

(1) N snaño (2) N phyiro (3) DC. pa PN om, read *par*

(4) N 'gyuro (5) N mede (6) DC par (7) N phyiro

(8) N yoñsu (9) D om. (10) N yoñsu (11) P te (12) N medo

(13) PDC om. (14) DC skyed

par 'dod de / gtan tshigs smra bas gtan tshigs kyis ñes pa skye  
 bar khas blañs pa'i phyir ñes pa ni rañ bzin dañ bcas par<sup>(1)</sup>  
 khas blañs<sup>(2)</sup> par 'gyur ro / / de [lta 'ma yin na gtan tshigs  
 sbyor ba don med pa kho nar<sup>(3... 3)</sup> 'gyur ro / / khas blañs 'pa<sup>(4... 4)</sup>  
 'dis na rañ bzin med pa ñid du dam bcas pa la gnod pas ña'i  
 ma ni mo gśam yin no<sup>(5... 5)</sup> zes bya ba bzin du rañ gi tshig dañ  
 'gal bal gsal rab ñid do sñam du sems na /

de yañ rigs pa ma yin te / ñes pa bskhed pa'i phyir gtan  
 tshigs sbyor mod kyī /<sup>(8)</sup> des ñes pa don dam par skye bar  
 khas blañs par ni mi<sup>(9... 9)</sup> 'gyur ro / / 'on kyañ skye ba tsam khas  
 °C271a blañs° par 'gyur gyi / skye ba'i khyad par ni ma yn no /  
 / doñ dam pa<sup>(10)</sup> pa'i skye ba bkag pas ni 'dir don dam pa  
 P314b (b) par rañ bzin med par sgrub par 'dod mod kyī / skye ba  
 tsam bkag pas ni ma yin no /  
 / de'i phyir gtan tshigs khyis ñes pa don dam par skye ba

\*D275a med kyis kyañ gdoñ las gzugs brñan bzin \*du kun rdzob pa'i  
 skye ba mi 'gal ba ñid pas dam bcas pa la yañ rañ gi tshig  
 dañ 'gal ba med do /  
 [I. B. 3] / ñes pa kun rdzob pa de yañ don dam pa rtogs  
 pa'i gtan tshigs su tshad ma ñid du 'dod pas ñes pa med do /  
 \*\*N303b / 'dir<sup>(15)</sup> nilas dañ 'bras bur<sup>(16)</sup> 'brel ba dañ<sup>(17)</sup> rten\*\* ciñ 'brel  
 bar 'byuñ ba la sogs pa ston par byed<sup>(18)</sup> pa'i luñ dañ 'gal ba'i  
 lan yañ btab pa yin te / las dañ 'bras bur 'brel pa la sogs pa  
 kun rdzob pa khas blañs pa'i phyir ro /

/ kun rdzob pa'i ño bo ñid yin yañ brgal žiñ brtag pa  
 mtshuñs pa ma yin te / de brtag mi bzod pa ñid kyī phyir

(1) DC pa (2) DC blañ (3) N 'gyuro (4) N 'gyuro  
 (5) PN par (6) N yino (7) N ñido (8) N C have / after /  
 (9) N 'gyuro (10) PDC om. (11) N yino (12) N medo  
 (13) N tshigsu (14) N medo (15) DNC 'dis (16) PN bu  
 (17) PN add *dañ* after *dañ* (18) P byad (19) C obscure  
 (20) N phyiro

kun rdzob pa yin pa'i phjir ro / / de lta ma yin na de don  
dam pa'i ño bo kho nar 'gyur gyi / kun rdzob pa ni ma yin  
no /

/ de ñid kyi phyir kun nas ñon moṅs pa dañ<sup>(4)</sup> rnam par  
byañ ba la sogs pa'i rtags dañ / don dam pa'i rañ bžin du  
'brel<sup>(5)</sup> pa gañ du yañ ma grub pas rjes su dpag pas gnod pa  
yañ mi srid do /

/ des spyir<sup>(8)</sup> kun nas ñon moṅs pa la sogs pa rgyu tsam  
zig tu sgrub na ni grub pa sgrub pa ñid yin te / de kun  
rdzob pa'i rgyu yin par khas len pa'i phyir ro /

/ miñ la ni brtsad pa med de / / <sup>(10)</sup>brdzun pa yañ grags  
par bsgrubs<sup>(11)</sup> pa'i phyir dañ / tshad mas kyañ gnod pa'i phyir  
ro /

/ 'phags pa lañ kar gśegs pa las

P315a

/ byañ chub sems dpa' dños po thams cad rañ bžin ( a ) med<sup>(14...)</sup>  
do žes dam bcas par mi bya'o

žes bstan pa gañ yin pa de yañ gcig kho nar rañ bžin med  
par dam 'cha' ba dgag pa yin par lta ste / <sup>(15)</sup> kun rdzob pa'i  
rañ bžin khas len pa'i phyir gcig kho na dgag pa ni rigs pa  
ma o'yin no /

°C271b

/ de lta ma yin na mñon sum la sogs pas gnod par thal bar  
'gyur ba'i yañ gsal rab la / de lta bu rañ bžin med pa ñid du  
sgrub par byed pa'i tshad ma yañ cuñ zad kyañ med do / /  
dam bcas pa tsam gyis kyañ 'dod pa'i don 'grub pa ma yin te  
/ thams cad kyis<sup>(18)</sup> thams cad du 'grub par thal bar 'gyur  
ba'i phyir ro /

/ de lta bas na don dam pa'i rañ bžin dgag par bya'i / spyir

- |               |                |              |                 |
|---------------|----------------|--------------|-----------------|
| (1) N phyiro  | (2) C obscure  | (3) N yino   | (4) PN have dañ |
| after dañ     | (5) D obscure  | (6) N rjesu  | (7) N srido     |
| (8) D phyir   | (9) N mede     | (10) PDN om. | (11) DC bsgrub  |
| (12) N phyiro | (13) PN lañkar | (14) N medo  | (15) N obscure  |
| (16) N yino   | (17) N medo    | (18) DC kyi  | (19) N phyiro   |

ni ma yin no /  
(1... ...1)

\*D275b / de bas kyañ de ñid las\*

blo gros chen po snañ ba dañ mi snañ ba'i mtshan ñid yin  
\*\*N304a pa'i phyir /<sup>(2)</sup> byañ chub sems dpa' dños po thams cad  
rañ bzin med do<sup>(3... ...3)</sup> zes dam bca' bar mi bya'i<sup>(4)</sup> / /<sup>(5)</sup> blo  
gros chen po 'on kyañ byañ chub sems dpa' chos thams  
cad sgyu ma dañ /<sup>(6)</sup> rmi lam dañ 'dra'o zes bstan<sup>(7)</sup> par  
bya'o

zes gsuñs te /

de la mdo'i don ni snañ ba'i mtshan ñid ni kun rdzob tu'o / /  
mi snañ ba'i mtshan ñid ni don dam par ro zes bya bar mñon  
no /

/ de'i phyir de ltar re žig dam bcas pa'i don mi 'gal ba yin<sup>(8...  
...8)</sup>  
no /

[I. B] / gtan tshigs ma grub pa ñid du yañ dogs par mi  
bya ste / 'di ltar re žig

[I. B. 1] dños po rnamś rañ las skye bar ni rigs pa ma yin  
P315b te / rañ gi ño bo yod pa dañ med pa bdag ñid kyi ( b ) rgyur  
mi 'thad pa'i phyir ro /  
(9... ...9)

/ dños po'i rgyu rañ gi ño bo yinn a / yod pa'am med pa žig  
yin grañ na / re žig

[I. B. 1. 1] yod pa ni ma yin te / de la cuñ zad kyañ byar  
med pa'i phyir ri 'bigs byed dañ gañs can bzin no /

/ gañ gi tshe dños po'i rañ gi ño bo grub pa de'i tshe ñid  
na de dañ tha mi dad pa'i phyir dños po yañ grub zin pas  
de las rgyu'i<sup>(10)</sup> bya ba med de / thug pa med par thal bar  
(11... ...11)  
'gyur ba'i phyir ro /

/ gañ grub na gañ žig mi 'grub pa de ni de'i rañ gi ño bo  
yin par yañ rigs pa ma yin te / ha cañ thal bar 'gyur ba'i

(1) N yino (2) D C om. (3) N medo (4) P bya'o

(5) N om. (6) DC om. (7) PN brtan (8) N yino

(9) N phyiro (10) PN rgyu yi (11) N phyiro

(1...      ...1)  
phyir ro /

/ tha dad pa ma yin na yañ rgyu dañ 'bras bu'i dños por  
rigs pa ma yin te / de gñis kyi rgyu ni tha dad pa yin pa'i  
(2...      ...2)  
phyir ro /

°C272a / de lta ma yin na de'i rgyu med pa'i phyir 'di ni 'bras  
bu'o 'di ni rgyu'o źes de'i tha sñad ma 'chol bar 'dogs par mi  
'gyur gyi / rgyu dañ 'bras bu° źes miñ btags pa 'ba' źig tu  
'gyur bar zad de / miñ la ni brtsad pa med do /  
(3...      ...3)

/ ci ste gnas skabs tha dad pa rgyu yin par rtog par byed  
na / gal te de lta na 'o na ni rañ gi ño bo kho na rgyur mi  
'grub ste / gnas skabs rnam s dañ gnas po tha mi dad pa'i  
phyir ro /

\*N304b /\*\* gnas skabs tha dad par khas len na ni de dañ 'dra bar  
gnas po yañ tha dad par 'gyur te<sup>(4)</sup> / / de'i phyir rna cha  
gdub kor la sogs pa rgyu'i gnas skabs kyi gser gyi rdzas kyañ  
las<sup>(5)</sup> gźan kho na yin la / dpuñ rgyan la sogs pa (a) 'bras\*  
P316a bu'i gnas skabs kyi yañ gźan kho na yin na / rañ gi ño bo  
\*D276a kho na rgyur ji ltar 'gyur / ci ste gnas po dañ 'dra na ni gnas  
skabs gñis kyañ gcig pa'i<sup>(6)</sup> ño bor 'gyur te / / de'i phyir ñes  
pa so<sup>(7)</sup> na 'dug pa kho na yin no /

/ de lta ma yin na gnas po dañ gnas skabs rnam s tha dad  
pa kho nar 'gyur te / de grub pa dañ bde ba gcig pa ma yin  
pa'i phyir ro /  
(8...      ...8)

/ yañ tha dad par khas len na ni gnas skabs dag kho na  
rgyu dañ 'bras bur 'gyur gyi /<sup>(9)</sup> rañ gi ño bo ni ma yin no /  
(10...      10...)

/ de lta bas na ño bo ñid 'dra ba gźan dañ gźan 'byuñ bas  
bslus pa ni gser la sogs pa de ñid 'di yin no źes tha sñad 'dogs  
kyi / de ñid gźan du 'gyur ba mthoñ nas ni ma yin no /  
(11...      ...11)  
(12...      ...12)

(1) N phyiro (2) N phyiro (3) N medo (4) P to

(5) All om. insert las (6) P N pa (7) PN bo (8) N phyiro

(9) C om. (10) N yino (11) N yino (12) N yino



/ de ñid ni gzan du mi 'gyur te / de kho na dañ gzan ni<sup>(1)</sup>  
phan<sup>(2)</sup> tshun spañs<sup>(3)</sup> te gnas pa'i mtshan ñid yin pa'i phyir<sup>(4)</sup>  
ro /

/ 'di ltar dños po'i de kho na ni yoñs su gcod pa na gzan<sup>(5... 5)</sup>  
ñid rnam par bcad nas yoñs su gcod la /<sup>(6... 6)</sup> gzan ñid kyañ<sup>(7)</sup>  
de ñid rnam par bcad<sup>(8)</sup> nas yoñs su gcod<sup>(9... 9)</sup> do /

/ de las bzlog<sup>(11)</sup> pa'i rnam par ma<sup>(12)</sup> bcad na ni de<sup>(13)</sup>  
yoñs su gcod<sup>(14... 14)</sup> pa ma yin pa kho nar 'gyur ro /<sup>(15)</sup> gañ la<sup>(16... 16)</sup>  
gañ žig yoñs su gcod pa gañ rnam par bcad pa med na med<sup>(17)</sup>  
pa de dag ni de la phan tshun spañs te gnas pa'i mtshan ñid  
yin la / gañ dag phan tshun spañs te gnas pa'i mtshan ñid  
yin pa de dag kyañ chos can gcig la cig car 'dur mi ruñ ba  
ste / dper na lus dañ lus med pa tha dad° pa lta bu'o /

°C272b

P316b

/ de lta ma yin na thams cad rdzas gcig kho nar (b) 'gyur<sup>(18... 18)</sup>  
te / des na lhan cig skye ba dañ 'jig par thal bar 'gyur ro /<sup>(19... 19)</sup>

\*\*N305a

/ de\*\*lta bas na de ñid gzan du 'gyur žes bya ba 'dir<sup>(20)</sup>  
rmoñs pa rab tu mañ pos spuñs bskyed par zad do /<sup>(21... 21)</sup>

/ gzan yañ yoñs su 'gyur ba žig yin na / ño bo sña ma<sup>(22... 22)</sup>  
yoñs su bor nas sam / yoñs su ma bor<sup>(23... 23)</sup> nas 'gyur grañ / de  
bžin du chos dag gam / chos can žig 'gyur grañ žes rnam  
par brtag ste /<sup>(24... 24)</sup>

de la gal te yoñs su bor nas žes bya ba'i phyogs yin na ni  
de'i<sup>(25)</sup> tshe dños po ni cha śas med pa yin pa'i phyir sña

(1) PN na (2) P phun (3) C obscure (4) N phyiro  
(5) N yoñsu (6) N yoñsu (7) All om. but Māl has /. Māl  
P 210a<sup>2</sup>. D191b<sup>2</sup> (8) P gcod (9) N yoñsu (10) P bcod  
(11) PN zlog (12) All om. but Māl has ma. Māl p210a<sup>2</sup> D191b<sup>3</sup>  
cf. Māl P194a<sup>4</sup> D177b<sup>1</sup> (13) N om. C de de (14) N yoñsu  
(15) PN bcad (16) N 'gyuro (17) N has / after /  
(18) All confused, read according to Māl P210a<sup>2-3</sup> D191b<sup>3</sup>. cf Māl  
P242b<sup>1-2</sup> D219a<sup>1</sup>, P194a<sup>4-5</sup> D177b<sup>1-2</sup>, P212a<sup>6</sup> D193b<sup>1</sup> (19) N 'gyuro  
(20) PN 'di rab tu (21) N yoñsu (22) N yoñsu (23) N yoñsu  
(24) D bar (25) N yoñsu (26) C obscure

- \*D276b    ma'i ṇo bo ni bdaḡ\* ñid thams cad kyiṣ rnam par žig na<sup>(1)</sup> rjes<sup>(2)</sup>  
 su 'gro ba can gyi ṇo bo ñid 'ga' yañ med par 'gyur ba ga la  
 yod /  
       <sup>(3)</sup>...    <sup>(3)</sup>  
       'on te yoñs su ma bor nas žes bya ba'i phyogs yin na ni /<sup>(4)</sup>  
 de'i tshe gnas skabs 'chol bar 'gyur te / des na rgan po la sogs  
 pa'i gnas<sup>(5)</sup> skabs na'añ bus pa la sogs pa'i gnas<sup>(6)</sup> skabs dmigs  
 par 'gyur ro /  
       / chos dag kyañ 'gyur bar rigs pa ma yin te / de dag ni de  
 dañ tha mi dad pa ñid pas chos can gyi<sup>(8)</sup> rañ gi ṇo bo bžin  
 du ṇo bo gcig pa'i phyir la / chos can yañ de dañ tha mi dad  
 pa ñid pas chos kyi rañ gi ṇo bo bžin du skye ba dañ<sup>(9)</sup> 'jig  
 par thal bar 'gyur ba'i phyir ro /  
       / de lta ma yin na chos dañ chos can dag tha dad pa kho  
 nar 'gyur te / de'i tshe chos sña ma ni rgyu med pa kho nar  
 'jig la / sñon med pa'i chos ni 'byuñ bas gañ žig 'byuñ bar  
 'gyur / tha dad pa yin na chos dañ chos can gyi dños por yañ<sup>(11)</sup>  
 rigs pa ma yin te / ha cañ thal (a) bar 'gyur ba'i phyir ro /  
       / chos can yañ 'gyur ba ma yin te / de ni khyod kyi lugs  
 kyiṣ dus thams cad du ṇo bo gcig pa yin pa'i phyir ro /  
       / de ñid gžan du 'gyur bar mi rigs par yañ sñor bsgrubs  
 zin to /  
       / gžan yañ gal te chos can de rañ bžin gyis brtan pa yin  
 na / de'i\*\* tshe de ji ltar gžan du 'gyur / nam mkha' la sogs  
 pa lta bu ṇo bo gcig pa ni rañ gi ṇo bo sña ma ma bor bar  
 gžan du 'gyur °bar rigs pa ma yin te / mi brtan pa'i ṇo bo  
 ñid du thal bar 'gyur ba'i phyir ro /  
       / °o na mi brtan pa'i bdaḡ ñid yin na ni / de'i tshe g•yo  
 ba'i rañ bžin can yin pas rgyu med par 'jig par 'gyur gyi / de
- P317a
- \*\*N305b
- °C273a

(1) PN have / (2) N rjesu (3) N yoñsu (4) DC om.

(5) P om. (6) P om. (7) N 'gyuro (8) DC ni (9) P has /

(10) N phyiro (11) N phyiro (12) N obscure (13) N phyiro

(14) C obscure

phyi mar mi gnas pa'i phyir g'zan du ni mi <sup>(1... 1)</sup>gyur ro /  
/ de lta bas na 'gyur bar smra ba 'di ni bzañ po ma yin  
no /

/ <sup>(2)</sup>de lta na cuñ zad kyañ mi byed pa'i phyir <sup>(3)</sup>rañ gi ño  
bo yod pa yañ bdag ñid kyi rgyu'i dños por yod pa ma <sup>(4... 4)</sup>yin  
no /

[I. B. 1. 2] / med pa yañ ma yin te /

de yañ nus pa thams cad dañ bral ba'i mtshan ñid yin pas  
cuñ zad mi byed pa'i <sup>(5... 5)</sup>phyir ro / / med pa'i mtshan ñid ni  
'di kho na yin te / 'di ltar nus pa thams cad dañ bral ba'o /

\*D277a

/ gañ žig nus pa'i nor ma lus pa dañ bral ba \* des ji ltar  
phan 'dogs par nus te / phan pa'i rgyu ni nus pa yin pa'i  
<sup>(6... 6)</sup>phyir ro /

/ de lta bas na grañs can la sogs pas <sup>(7... 7)</sup>dño po rnam<sup>(8... 8)</sup>s rañ  
skye bar yoñs su brtags pa de rigs pa ma yin no /

[I. B. 2] / g'zan las šes bya ba'i phyogs kyañ rigs pa ma  
yin te /

'di ltar g'zan las skye bar 'gyur na /

[I. B. 2. 1] rtag pa'am [I. B. 2. 2] mi rtag pa'am /

[I. B. 2. 3] gñi ga' am [I. B. 2. 4.] gñi ga ma

P317b

(b) yin pa las 'gyur grañ žes brtag ste /

re žig rtag pa'i dños po ci yañ med pa'i phyir

[I. B. 2. 1] rtag pa las ni ma yin no /

/ rtag pa'i dños po der yoñs su brtag na /

[I. B. 2. 1. 1] don byed nus pa žig la rgyur yoñs su brtag  
ste / dper na g'zan dag gis bdag la sogs pa bde ba la sogs  
<sup>(13... 13)</sup>pa'i rgyur yoñs su brtags pa lta bu žig gam

[I. B. 2. 1. 2] mi nus pa žig pa ste / dper na bye brag tu

- |              |              |               |              |
|--------------|--------------|---------------|--------------|
| (1) N 'gyuro | (2) PD om.   | (3) DC have / | (4) N yino   |
| (5) N phyiro | (6) N phyiro | (7) N yoñsu   | (8) N yino   |
| (9) DC bya'i | (10) N yino  | (11) N yoñsu  | (12) N yoñsu |
| (13) N yoñsu |              |               |              |

smra ba rnams kyis nam mkha' la sogs pa gsum nus pa med  
pa kho na la dños po ñid du yoñs su brtags pa lta bu žig  
yin grañ na /

de la

\*\*N306a [I. B. 2. 1. 1] don byed nus pa gañ yin pa de ni rtag pa\*\*  
yin par rigs pa ma yin te /

rtag pa ni kun rdzob tu yañ rim dañ cig śos dag gis<sup>(2)</sup> don  
byed pa mi 'thad pa'i phyir ro /

/ rgyu nus pa thogs pa med pa yin na yañ res 'ga' yañ 'bras  
°C273b bu mi skyed par mi 'grub la / °'bras bu rgyu ma tshañ ba med  
pa can yin na nam yañ mi skye bar mi 'gyur na / gañ gis na  
rim gyis don bya ba byed par 'gyur / gžan dag gis bogs  
dbyuñ du med pa ni bltos<sup>(5)</sup> pa ci yañ med na / gañ gis na  
lhan cig byed pa'i rkyen la bltos<sup>(6)</sup> nas res<sup>(7)</sup> 'ga' 'bras bu  
bskyed par mi 'gyur ro<sup>(9)</sup> žes bya bar rigs par 'gyur /

gžan yañ bya ba byed pa'i dus na de'i lhan cig byed pa'i  
rkyen thams cad ñe ba'i rañ bžin gañ yin pa de ñid lhan cig  
byed pa'i rgyu dañ bral ba'i dus su rjes su 'brañ bar 'dod na  
ni de'i tshe de dañ 'brel ba'i rañ bžin rjes su 'brañ bas nan  
gyis mgul nas lcags thag gis dam rab tu btags pa 'dra bar 'dod  
pa'i dus bžin du rtag tu lhan cig byed pa'i rkyen rnams dañ  
P318a ñe ba'i rañ (a) bžin du 'gyur te / de'i phyir lhan cig byed  
pa dañ mi 'bral ba ñid du 'gyur ro /

\*D277b / 'bras bu yañ bltos<sup>(13)</sup> par rigs pa ma yin te / med\* pa'i  
phyir dper na ri boñ gi rwa lta bu'o /  
/ de dañ 'brel pa'i rañ gi ño bo 'thob pa'i phyir blos yoñs<sup>(14)</sup>  
su brtags<sup>(15)</sup> pa la bltos<sup>(16)</sup> nas med pa la yañ blos rnam par

(1) N yoñsu (2) PN gi (3) N phyiro (4) P ram gis  
(5) DC ltos (6) DC ltos (7) P re (8) N 'gyuro  
(9) PN have // (10) N rjesu (11) N rjesu (12) N 'gyuro  
(13) DC ltos (14) N yoñsu (15) PN btags (16) DC ltos

b'zag<sup>(1)</sup> mod kyi / de lta na yañ de mñon par 'grub par bya  
 ba la des rgyu nus pa thogs pa med pa gañ yin pa de ñid la  
 phan 'dogs par bltos<sup>(2)</sup> par bya'i / <sup>(4... ...4)</sup> / <sup>(3)</sup> g'zan la ni ma yin no /  
 / de'i phyir 'bras bus rtag<sup>(5)</sup> par 'dod pa'i dños po rtag tu  
 phan 'dogs pa ñid du ñe bar nus pa thogs pa med pa de ñid  
 bor nas<sup>(6)</sup> g'zan la bltos<sup>(7)</sup> ci dgos te / des<sup>(8)</sup> 'di la gnod pa  
 byas pa'm / g'zan dag gis 'di la phan btags pa ni cuñ zad  
 kyañ<sup>(9... ...9)</sup> med do /

\*\*N306b / g'zan yañ 'bras\*\* bu lhan cig byed pa'i rkyen rnams la  
 bltos<sup>(10)</sup> la ni rag na / <sup>(11)</sup> 'on kyañ dbañ phyug la sogs pa rgyu  
 gañ yin pa de nus pa thogs pa med pa yin na go bltos<sup>(12)</sup> ci  
 dgos / gañ gis na de skyer mi 'dod<sup>(13)</sup> b'zin du yañ nan gyis<sup>(14)</sup>  
 drañs te skyed par mi byed / de lta na des bdag ñid kyi mthu  
 ñe bar bstan par 'gyur gyi / <sup>(15)</sup> g'zan du ni ma yin no /  
 / de lta bas na 'bras bu med pa bltos<sup>(16)</sup> par rigs pa ni<sup>(17)</sup> ma  
 yin no / <sup>(18... ...18)</sup>

°C274a / yod pa yañ ma yin te / de ni rañ gi ño mtha' dag thob  
 pa° ñid kyis thams cad la re ba med pa'i phyir ro / <sup>(19... ...19)</sup>

/ gal te 'di sñam du de gñis tha dad pa ma yin pa ñid du  
 thal bar 'gyur ba'i phyir 'bras bu rgyu'i chos thams cad kyi  
 rjes su byed pa<sup>(20... ...20)</sup> <sup>(21)</sup> ni ma yin no / / de'i (b) phyir gdon mi  
 za bar de gñis rnam pa 'ga' žig gis tha dad par 'gyur ro / <sup>(22... ...22)</sup> <sup>(23... ...23)</sup>  
 / des na rgyu<sup>(24)</sup> rim can<sup>(25)</sup> ma yin pa las kyañ 'bras bu rim  
 can mi 'gal ba ñid do sñam du sems na /

de ni rigs pa ma yin te / kho bo cag kyañ 'bras bu rgyu'i

- (1) DC g'zag (2) DC ltos (3) N om. (4) N yino  
 (5) DC rtog N? (6) DC hare / (7) DC ltos (8) P de  
 (9) N medo (10) DC ltos (11) DC om. (12) DC ltos  
 (13) C 'dod pa (14) N gyi (15) PN om. (16) DC ltos  
 (17) NC om. (18) N yino (19) N phyiro (20) N rjesu  
 (21) PD have *pa* after *pa* (22) N yino (23) N 'gyuro  
 (24) All om. but add *rgyu* according to Māl P211b<sup>1</sup> D192b<sup>6</sup>  
 (25) All om. but add *can* according to Māl P211b<sup>1</sup> D192b<sup>6</sup>

chos thams cad kyi rjes su byed do žes ni mi žer ro / / 'on  
 kyañ re žig gdon mi za bar 'bras bus rgyu la yod pa'i rjes su  
 'gro ba dañ / ldog pa'i ni rjes su bya dgos te / rgyu dañ 'bras  
 bu'i dños po'i rgyu ni de tsam du zad pa'i phyir ro /

/ 'bras bu 'ga' yañ rgyu rtag par 'dod pa la yod pa'i ldog  
 pa'i rjes su byed pa ni med do / / rtag pa la ldog pa med  
 pa'i phyir ro /

/ de lta ma yin na mi<sup>(11)</sup> rtag pa kho nar 'gyur gyi /<sup>(12)</sup> rtag  
 pa ni ma yin no /

\*D278a

/ rjes su 'gro ba'i byed pa'i rjes su byed pa yañ ma yin te /  
 de ril gyis ñe yañ res 'ga' 'bras\* bu mi 'byuñ ba'i phyir ro /  
 / gañ žig gañ la yod pa'i rjes su 'gro ba dañ ldog pa dag  
 gis rjes su mi byed pa de ni<sup>(19)</sup> de'i 'bras bur rigs pa ma yin  
 te / ha cañ thal bar 'gyur ba'i phyir ro /

/ de ltar na re žig rtag pas rim gyis don byed par mi nus  
 so /

/ cig car yañ ma yin te / phyis bya ba byed pa'i rañ bžin  
 de lta bu'i rjes su 'brañ na 'bras bu skye ba dañ bral bar mi  
 ruñ ba'i phyir sña ma bžin no /

\*\*N307a

/ rjes su mi 'brañ na ni de'i\*\* rtag pa ñid ñams so /

/ rim dañ cig car dag las gžan pa gañ gis na<sup>(26)</sup> don byed par  
 'gyur ba'i rnam pa gžan ni med de / de gñis ni phan tshun  
 yoñs su gcod pa rnam par bcad pa med na med pa ñid kyis

- (1) N rjesu (2) N byedo (3) N žero (4) PN zar  
 (5) N rjesu (6) N rjesu (7) N phyiro (8) N rjesu  
 (9) N medo (10) N phyiro (11) D ni, C ni mi (12) PN om.  
 (13) N rjesu (14) N rjesu (15) N phyiro (16) N rjesu  
 (17) All was 'gro ba'i but add *dañ ldog pa dag gis* according to Māl  
 P211b<sup>5</sup> D193a<sup>2</sup> (18) N rjesu (19) D na (20) N phyiro  
 (21) N nuso (22) N rjesu (23) N bžino (24) N rjesu  
 (25) N ñamso (26) C om. (27) N mede (28) All confused, read  
 according to Māl P212a<sup>6</sup> D193b<sup>1</sup> cf Māl P210a<sup>2-3</sup> D191b<sup>3</sup>, P242b<sup>1-2</sup>  
 D219a<sup>1</sup>, P194a<sup>4-5</sup> D177b<sup>1-2</sup> (28a) N yoñs

- P319a phan tshun spoñs te<sup>(1)</sup> gnas pa'i mtshan ñid yin pa'i<sup>(2... ...2)</sup> phyir ro /  
 [I. B. 2. 1. 2] / nus pa ma lus pas (a) stoñ pa dños po  
 ñid du rigs pa yañ ma yin te /<sup>(3)</sup> ha cañ thal bar 'gyur ba'i  
<sup>(4... ...4)</sup> phyir ro /
- °C274b / de lta na ni mo<sup>(5... ...5)</sup> gśam gyi bu la sogs pa yañ dños po ñid  
 du thal bar 'gyur ro / / de'i phyir dños po med par tha sñad°  
 gdags pa'i rgyu ci yañ ma grub pas dños po med par cuñ<sup>(6)</sup>  
 zad kyañ 'grub par mi<sup>(7... ...7)</sup> 'gyur ro /  
 / de ma grub na dños po yañ mi 'grub ste / de'i<sup>(8)</sup> mi<sup>(9)</sup>  
 mthun pa'i phyogs rnam par gcad pa ma grub pa'i<sup>(10... ...10)</sup> phyir ro /  
 / mi mthun pa'i phyogs las ma log pa'i rañ bzin ni cuñ zad  
 kyañ rañ gi ño bo yoñs su gcad par mi nus so /  
 / de lta bas na don byed pa'i nus pa dañ bral ba kho na ri  
 boñ gi rwa la sogs pa'i ño bo'i mtshan ñid yin la /<sup>(13)</sup> de las  
 bzlog pa ni dños po'i mtshan ñid do zes bya bar rigs so /  
 / des na ri boñ gi rwa la sogs pa dañ khyad par med par so  
 sor brtags pa'i 'gog pa la sogs pa la rtogs pa dañ ldan pa  
 rnams dños por tha sñad 'dogs par rigs pa ma yin te / de'i  
 rgyu med pa'i phyir ro /  
 / 'di ltar gal te so sor brtags pa'i 'gog pa la sogs pa de 'ga'  
 zig gi śes pa'i yul du 'gyur na ni / de'i tshe de'i gdon mi za  
 bar de'i rgyu'i dños por khas blañ<sup>(15)</sup> dgogs te / rgyu ma yin  
 pa la<sup>(16)</sup> yul ñid med pa'i phyir ro /  
 / rgyu'i khyad par kho na rañ gi rnam par 'jog pas rnam  
 par śes pa la phan pa byed pa na yul yin no zes gsuñs so /  
 \*D278b / de lta ma<sup>(19)</sup> yin na ni rtag pa de'i rtag\* pa ñid ñams par  
 \*\*N307b 'gyur te / gañ du yañ rim dañ cig car dag gis<sup>(20)</sup>\*\* rgyur

(1) All have / (2) N phyiro (3) DC om. (4) N phyir  
 (5) N 'gyuro (6) DC chuñ (7) N 'gyuro (8) DC de  
 (9) PN miñ (10) N phyiro (11) N yoñsu (12) PD om.  
 (13) C has / after / (14) N rigso (15) DC blañs (16) DC hare rgyu  
 (17) N yino (18) PN gsuñ ño (19) PN om. (20) D C gi

mi ruñ ba'i phyir ro /

P319b / 'on te phan mi 'dogs bzin du yañ rnam par (b) śes pa'i  
yul du rtog na ni de'i rnam par śes pa'i rañ bzin rnam pa  
thams cad du rjes su <sup>(1... ..1)</sup> 'brañ bas de'i rnam par śes pa yañ de'i  
rañ bzin dañ 'dra bar rtag par rjes su <sup>(2... ..2)</sup> 'brañ ba'i phyir rtag  
par thal bar <sup>(3... ..3)</sup> 'gyur ro /

/ rjes su mi 'brañ na ni de'i rtag pa ñid ñams par thal ba  
bzlog dka'o /

/ 'on te tha na thams cad mkhen pa'i thugs kyañ ruñ 'ga'i  
yul gyi dños por yañ ñe bar mi 'gro'o źes rtog<sup>(4)</sup> par byed na  
/ de'i tshe mkhas pa rnams de la dños por tha sñad 'dogs par  
rigs pa ma yin te / rnam par <sup>(6... ..6)</sup> śes pa<sup>(5)</sup> der tha sñad gdags  
pa'i rgyu med pa'i phyir ro /

°C275a / de ri boñ gi rwa la sogs pa śin tu med pa las kyañ gañ  
gis na de las tha dad par bsgrub par bya ba khyad par <sup>(7... ..7)</sup> brjod  
par bya dgos te / dños po °med pa las rnam par ma phye  
ba'i rañ bzin ni dños po ñid du rtogs par mi nus so / <sup>(8... ..8)</sup>

/ de'i khyad par bdag gi ño bo 'dzin pa yod do źes brjod  
par yañ rigs pa ma yin te / dños po med pa la yañ nus pa  
thams cad dañ bral ba'i mtshan ñid kyi bdag gi ño bo 'dzin  
pa yod pa'i <sup>(9... ..9)</sup> phyir ro /

/ mo<sup>(10)</sup> gśam gyi bu la sogs pa dañ khyad par med pa de lta  
bu de la yañ dños po źes miñ du 'dogs na miñ la ni brtsad  
pa med do / <sup>(11... ..11)</sup>

/ 'on kyañ rtog pa dañ ldan pa don byed pa don du gñer  
bas dños po'i rañ gi ño bo dpyod par byed pa de dag ni śin  
tu mi dmigs pa'i rañ bzin nus pa thams cad kyis stoñ pas mo  
gśam gyi bu la sogs pa dañ khyad par med pa de lta bu de la

(1) N rjesu (2) N rjesu (3) N 'gyuro (4) C rtag

(5) PN pa'i (6) N phyiro (7) D om. (8) N nuso

(9) N phyiro (10) C ma (11) N medo



tha sñad gdags pa'i rgyu med pa'i phyir dños po rnam par 'jog  
pa ni legs pa ma yin no źes zer ro /

P320a

/ smras pa/ ( a )

/ don byed nus pa ma yin la / / de<sup>(1)</sup> don gñer bas dpyad  
ci phan /

/ ma niñ gzugs bzañ mi bzañ źes / / 'dod ldan rnam kyis  
brtags ci phan /

/ de ltar<sup>(2)</sup> na rtag pa ñid kyis dños po ci yañ med pas rtag

\*\*N308a

pa las skye ba rigs pa\*\* ma yin no / (continued)

本研究の全ての責任は筆者にあることはもとよりであるが、御指導賜りました京都大学教授梶山雄一先生の御厚情に深く感謝申し上げます。

( '80.12.8 )

---

(1) DC de'i    (2) P ldan